



日本マスターズ柔道

ホームページ <http://jmja.jp/>

2017年1月31日
JMJA-News 第16号
日本マスターズ柔道協会

〒244-0801
神奈川県横浜市戸塚区品濃町
553-1 N-1302 森本薫方
電話 090-4022-5992
FAX 050-3730-0846
e-mail info@jmja.jp
発行 会長 三橋 英夫

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会 会長 三橋 英夫

二〇一七年の新年を迎え謹んで新春のお慶びを申しあげます。

本年も皆様にとりまして素晴らしい年になりますよう祈念申し上げます。

このたび、清家春夫会長の後を受けて日本マスターズ柔道協会会長に就任しました三橋英夫です。

昨年十一月の執行部会で今年度の役員人事等が審議され、清家会長から「二〇一六年末で退



任するので、会長職を引継いでほしい。」と依頼されました。

執行部会及び代表理事会（書面会議）に諮った結果、全会一致で承認されましたので、役

不足とは思いますが、日本マスターズ柔道の継続的な発展のためお引き受け致しました。

昨年のリオ・オリンピックでは、柔道選手が大活躍しました。男子は七階級全てでメダル獲得。女子は五個。合計金三個を含む十二個のメダルを獲得して日本中が歓喜に湧きました。これを機に、柔道人口、特に、青少年柔道家が増えてくれることを切に願っています。

昨年六月、講道館で開催された「二〇一六年日本ベテランズ国際柔道大会（第十三回日本マスターズ柔道大会）」は内外からの選手約六百七十人が参加し、成功裡に終了することが出来ました。これは、IJF、全柔連はじめ関係諸団体、会員諸兄のご理解・ご協力とご支援のおかげであり、皆様方に心より感謝し厚く御礼を申し上げます。ご承知のとおり、当協会は、二〇〇二年一月に「生涯スポーツとしてのマスターズ柔道の普及・振興を図り、会員の心身の健全な発達と青少年の健全な育成に寄与すること」を目的として発足しました。以来、初代野口宏水氏、清水正敬氏、そして清家春夫氏という旺盛な責任感と広い視野を持った素晴らしいリーダーの下、協会活動は大きく進展し、関係者の認知度・期待感も高まってきています。特に、二〇一三年からは、マスターズ大会がIJF・全柔連との協同開催となり、知名度が上がり、参加者も一段と増えてきています。二〇〇四年、第一回の日本マスターズ柔道大会に参加して以来、私の周りには、「体の続く限り柔道が続けたい、この年に

なっても競い合うことの出来る喜びを味わいたい、胸の炎を燃やし続けたい」などと熱い胸の内を語る会員が沢山います。これらの人達の気持ちを十分に受け止めると同時に、他方、かつて畳の上で汗を流したが、今は柔道着がタンスの肥やしとなっている人達の掘り起こしに努めていきたいと思っております。

三代に渡る会長の方針を踏まえつつ、会員の率直な意見を聞き、協会の拡充・発展に努めると共に、マスターズ柔道のバトンを次の世代に繋げていきたいと存じます。皆様の熱いご支援、ご協力をお願い申し上げます。

昨年の活動状況及び本年の事業計画、課題等について報告します。

1、平成二十八年の活動状況 (1) 執行部の活動状況

執行部役員の人事異動があり、長年、本協会を支えてくれた副会長の毛利修氏、栗本忠弘氏及び小林潔司事務局長が引退し、その後任として、吉成隆杜副会長、森本薫事務局長及び原優事務局長を新役員として迎えました。特に、小林氏には、二〇一一年の第八回千葉大会以来五年間に渡って、当協会の屋

台骨を支えていただきました。改めて感謝申し上げます。

新事務局も、大会の事前準備・申込み受付・関係団体への根回し、広告取り・プログラム作成をはじめ傷害保険契約等大変に幅広い業務を円滑適正に処理してきました。

また、役員の新陳代謝と活性化策として、八十歳定年制を導入しました。すなわち、会長、副会長、専務理事、事務局長、同次長、代表理事、常任理事及び理事職については、八十歳で後進に道を譲ることにしました。

(2) 広報委員会の設置

昨年、会報やHPを含む広報活動を強化するため「広報委員会」を設置しました。西久保副会長を委員長として、吉成副委員長以下五人の委員で会報及び記念誌の発行、HPの充実、柔道関係誌への記事掲載などを担って活躍しています。

(3) 二金会の活動状況

毎月第二金曜日に講道館の大道場を借りて形や乱取の稽古会をしている。参加者は毎回三十人前後、外国人とも合同稽古を行い、国際交流を図っている。最近では、若い人の参加も見られ、HPを見て京都から来たと言う人も加わって盛況となっている。

(4) 二〇一六年日本ベテランズ国際柔道大会(第十三回日本マスターズ柔道大会)

六月十八日(土)、十九日(日)の二日間、講道館に於いて外国人二十八人を含む男女約六百七十人の選手により試合(個人・団体)及び形競技が行われ、熱戦が繰り広げられました。開会式では、IJFからボナダー・ベテランズ委員会委員長、全柔連松井大会副委員長、清家会長の挨拶がありました。

今大会の選手宣誓は、愛知県の水野博介氏と加古若子さんで初の男女ペアによる力強い宣誓が行われました。

選手の出場申込受付業務、登録費等の受理、プログラム作成等の事前準備の多くを当協会が担当し、審判員・審査員の手配、競技運営等は、全柔連が担当しました。

○本大会の特徴・注目点

大会が初めて六月という早期開催になったことから、当初、大会出場必須要件の全柔連登録が間に合わない事態が予測されましたが、登録担当者と緊密な連絡をとり、手間はかかりましたが、ほぼ円滑に乗り切ることができました。また、従来、期限ギリギリと

いう大会申込も散見されたが、国際試合で導入している申込期限の二段階制を導入しました。すなわち、申込期限を一次、二次にわけ、二次については、申込金(協会登録費)を二倍にしたことにより早期申込を促すことができました。

イ、大会初参加者

大会初参加者が百七十三人、全体六百七十人の26%を占め、前回の佐賀大会に引き続き新しい参加者が増加した。また、講道館開催のため関東地方からの参加者が三百七十七人、47%と約半数を占めた。開催地周辺の参加者が増えるのは、従来からの傾向であり、やはり隔年で東京と地方都市での開催が望まれる。

ウ、高齢者の出場

個人戦に出場した七十代は六十四人、八十代は十人と年々高齢者の出場が増えている。特に、古式の形競技には、大

矢秀昭氏(八七)と竹安晃照氏(八四)が出場し、古武士を彷彿させる味のある演技を見せて、万雷の拍手を浴びると共に、若い選手にやる気と勇気を与えていた。

エ、団体戦

男子団体戦は、三十代から七十代までの五人の選手でチー

ムを構成し、トーナメントで優勝を争う。ニュージールランドからの二チームを加えて四十チームが、女子団体は三チームが参加し、それぞれ郷土の応援を背に、体重無差別の激しい戦いを繰り広げた結果、男子は、大型強豪選手を揃えた「愛知県チーム」が順当に勝ち上がり、優勝を果たした。女子は、実力者を揃えた「鹿児島チーム」が優勝した。

オ、当協会主催の懇親会

恒例となっている大会初日夜、懇親会が学士会館で開催されました。酒が進むにつれ歌や日本舞踊、詩吟等が披露され、外国人を含む参加者一同、戦を忘れて国際交流・柔道交流の宴を楽しみました。最後に、坂東峰二三さん振り付けによる東京五輪音頭の曲に乗せた「日本マスターズ柔道踊り」を参加者が舞

い、集合写真を撮って、翌日の個人戦の健闘と来年の再会を約してお開きとなりました。

(5) 第八回世界ベテランズ国際柔道大会

十一月十八日(二十一日の間、米国フロリダ州フォートローダーデルで開催されたIJF主催の「第八回世界ベテラ

ンズ国際柔道大会」にツアーを組んで十三人が参加した。長い旅行時間そして減量と戦いながら金2、銀3、銅2個のメダル獲得という素晴らしい成績を残して帰国した。ただ、M11(八十歳)以上の試合は行われず「特別功労賞」が授与された。

(6) 全国柔道高段者大会と総会

四月二十八日講道館で開催された全国柔道高段者大会には、全国から多くの会員が出場し、それぞれが日頃鍛えた生涯柔道の成果を如何なく発揮して戦いに挑んでいる。大会後、学士会館において、多数の会員を集めて当協会の総会が開催され、二十七年年度の決算、二十八年年度の事業計画・予算等が代表理事会の決定事項として報告された。総会の後は、全国の会員と親睦と交流を図った。

(7) 夏季柔道研修会(勝浦合宿)

八月二十七日、二十八日の二日間、二年振りに日本武道館研修センター(千葉県勝浦)で夏季柔道研修会が開催された。四十(七十歳のベテラン勢)に交じって、小・中学生達も加わり、受身・打込み・寝技・乱取等に滝のような汗を流した。夕食は、屋外でバーベキュー。福島県や兵庫県から駆けつけた

会員もおり、肉や新鮮な魚・野菜に舌鼓を打ちながら柔道談義と交流を深めた。

2、平成二十九年度の当面の課題と対策

(1)「二〇一七年日本ベテランズ国際柔道大会(第十四回日本マスターズ柔道大会)」(和歌山県白浜)開催

当協会の最大行事であり、全柔連と緊密に連絡を取りながら開催の諸準備に万全を期すと同時に、大会を通じてマスターズ柔道の普及・振興に努めたい。

原則として、東京(講道館)と地方の隔年開催を行ってきたが、東京大会の参加者は、約六百七十人。地方開催は、年々参加者を増やしてはいるものの嬉野大会で四百五十人位です。今年の大会は、和歌山県白浜ですが、関西と東海地方を背後地に控えているので、会報やHPで広報すると共に、紀伊半島三県の初参加者を増やし、地方大会の参加記録を塗り替えたい

(2) 女子の参加者の増加

昨年の二〇一六年ベテランズ大会への女子の参加者は、団体戦、個人戦、形をそれぞれ合わせても全部で四十名程度であり、男子に比較して参加者が増えていない。どのようにすれば

参加出来るのか女子選手の意見を聞きながら参加し易い大会環境を考えていきたい。

(3) 会報第十八号の発行

一月下旬に第十六号の会報を発行し、六月十七日、十八日の和歌山県白浜大会への参加を呼びかける。会報と共に大会要項及び申込用紙等を郵送する。

(4) 合同稽古会の開催

毎年、二月に神奈川県立武道館(横浜市)で開催される合同稽古に参加し、丸の内柔道倶楽部、大木塾、横浜土曜会、横浜税関等関連団体との稽古、柔道交流を図る。

また、その他の都市との合同稽古も検討したい。

(5) 夏季の柔道研修会(勝浦合宿)の実施

昨年八月末に千葉県勝浦での研修会には、会員の外、会員の子供や孫が参加して楽しい柔道研修会となった。今年も会員や家族・関係団体との柔道交流を図る。

(6) 第九回国際ベテランズ柔道大会への参加

第九回国際ベテランズ柔道大会は、開催時期・場所等は未定であるが、ツアーを組んで参加したい。

(7) 全日本柔道形競技大会への参加

全日本柔道形競技大会に多くの会員が出場し、近年は、上位入賞を果たすなど活躍していることから、本年も入賞を目指す会員を応援していきたい。

(8) 広報活動の強化

昨年、広報委員会を設置し、広報活動に活躍しているが、更に、HP等には、時宜を得たトピックス等を掲載し、新たな会員の増加に繋げていきたい。また、昇段委託団体等には、当協会の活動状況等を積極的に広報していきたい。

終わりに

今年も健康に留意し、怪我なく楽しい柔道と全国の会員や外国人との柔道交流を図りながら生涯柔道を心掛け、お元気で活躍されることを祈念申し上げます。



新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会 初代名誉会長 野口 宏水



謹賀新年

皆様には本年もお揃いで佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

お陰さまで私共、本年は恙無く新年を迎えることができました。

齢重ねて本年二月には八十二歳を迎えるに当たり、SAMUEL DIMANの「年を重ねるだけで人は老いるものではない。理想を失った時初めて老いがやってくる。希望ある限り人は若く、失望と共に老い朽ちる」に習って「我八〇有余にして自らキョウヨウ(今日用)とキョウイク(今日行く)を心掛けん!」を座右の銘として、ガン明けの二〇二三年来近くの芦花公園での朝のZENKラジオ体操と二〇〇三年創設の日本マスターズ柔道協会の二金会講道館合同稽古(背中に

チタンを入れていたため主に見学とその後の楽しい交流会)に出席することを心掛けています。皆様の益々のご健勝と変わらぬご交誼を切にお願い申し上げます。 二〇一七年元旦

「人生の三楽」

- 一、道を行い、善を楽しむこと
- 一、健康な生活を楽しむこと
- 一、長生きをして、長く楽しむこと

右は二〇一五年二月二十二日、小生八十歳を迎えるにあたり、「貝原益軒八十四歳の時養生訓でこの三楽が何より貴いものと説いたとのこと、二度のガンを乗り越え人生まだまだこれから、これからも『三楽』を目指して楽しんで生きてください」と長男・毅水(柔道六段)が傘寿の祝いに贈ってくれたもので、常々「我が人生、仕事と柔道と酒(勿論家内が言う「家庭」がベース)と豪語していただけない、江戸時代の聖賢の言葉は鬼に金棒とばかり、この「三楽」を心掛けて生きてきたものであります。

「閑話休題」

只一人自ら人生を楽しんで

かりは居られない。昨年見事に
発刊された「老驥伏櫪」日本マ
スターズ柔道協会十二年の歩み
に執筆して戴いた方々も、ご本
人、ご家族は勿論、豊の上で共
に形に試合に相見えた人々が、
突如として幽明境を分つて鬼籍
に入ってしまったのは、信じ
難い、悲しい出来事である。

この「十二年の歩み」で、い
わば遺稿となったページをメク
ルのは真にツイライが、順にP25小
川栄一郎様、P27小西正弘様、
P39太田尚充様、いずれの方もマ
スターズ大会では率先して生涯
柔道に徹された方である。

就中ヨーロッパと違い普及の
遅れていたアメリカに慶應義塾
卒業後渡り、墳墓の地とされ
今日のアメリカ柔道を築き上げ
られた宮崎剛先輩の死は正に衝
撃そのものであった。先輩より
一九九九年にカナダ・ウエラン
ドで第一回大会が開催されると
教えられ、初めてマスターズ世
界大会へ参加、以来各国を巡り、
第五回日本での大会開催を機に、
日本マスターズ柔道協会設立に
至る端緒を開いて下さった。

それぞれ先輩柔友のご冥福を
切にお祈りするのみ。
最後に小生にとつて嬉しいこ
とを披露して筆をおきます。

昨年暮れ、区の民生委員の方

より、年明けに区立小学二年生
の給食の時間に一緒に食事をし
てほしいとのこと。三年前には
ガンの手術で歩けなかった老病
人が、病床を離れ、車椅子、杖
をつき、今では朝六時半のNH
Kラジオ体操に毎日通っている
様子を見て、八十一歳老人と小
学二年生児童と会食させたいと
のこと。

即OKし、今考えていること
は、戦中戦後一億総貧乏人時代
の暮らし振り、分けても超食糧
難時代に一粒のご飯もお百姓さ
んは一年かけて作ってくれてい
るから食べ残しは絶対不可。給
食を作ってくださる調理の方々、
また先生ご両親に感謝を忘れな
いことなどを語ろうかと。

そして教室へは、今まで世界
マスターズ大会で獲得した十個
の金メダル、二個の銀メダルを
首にかけて登場して、日本武道
精神を引き継いでいる老人を見
せたいと思っています。リオ五
輪の後だけに受けること必定
結果は二月の二金会にて報告し
ます。

追伸 大晦日前日より現在、
救急車にて二回目の腸閉塞にて
入院中。一月十日頃には全快退
院の予定であることを付記しま
す。

新年のご挨拶



今年も皆様にとりまして素晴
らしい年になりますように祈願
いたします。

マスターズ柔道協会発足十四
年目の昨年六月十八日と十九日
に、講道館に於いて第十三回大
会が行われました。

第一回静岡・浜北大大会では、
一九五名の参加が始まり、昨年
の第十三回大会では六七六名に
なるなど、回を重ね、記名度が
UPすると共に、マスターズ大
会の柔道界での存在感は高まっ
ております。

「日本マスターズ柔道大会」
は、当初は国体を開催した県に
お祝いし、翌年に試合と形の大
会を行ってまいりました。

第七回の新潟県・長岡大会以
降は、IJF・全柔連と共に一

第二代 名誉会長 清水 正敬

体での運営を行っています。I
JFとの関係から世界マスター
ズ大会も世界各地で行われて
います。昨年、アメリカ・フロ
リダで行われたアメリカ大会に
は、マスターズ会員十六名が参
加しました。

従来、中高齢者の出場する大
会は、高段者大会の他には余り
無く、高齢で低段者の試合の
機会はほとんどありませんでし
た。そんな中で、「日本マスター
ズ柔道大会」は、高齢で乱取り
稽古に励んでいる方や形を稽古
している方の目指す目標になっ
たと、大いに励みになっており
ます。特に、「形」に於いては「全
日本柔道形競技大会」での上位
入賞者のほとんどが当協会メン
バーであるという、大変頼もし
い成果も出ております。

大会を運営して頂く開催県柔
道協会に取りましては、前年の
教員大会、国体、そして当協会
の大会と大変です。そのために、
できるだけ開催県の皆様には、
お手数をお掛けしない様努力し
たいと思っております。

私は、「よしやるぞ」の心の

気合が減少傾向の昨今ですが、
多くのM10以上の先輩方の頑張
る姿を見るにつけ、膝、腰など
の痛みはありますが、多少無理
してでも、楽しみながらの柔道
を続けて行きたいと思っていま
す。

二〇二〇年の東京オリンピック
クでは、柔道は日本の最大のメ
ダル獲得種目として、これから
一層注目される事でしょう。

柔道人口減少傾向の中で、こ
の最大のチャンスを生かして、
青少年の獲得活動をしましよ
う。現役バリバリから我々中高
年齢者まで、柔道で頑張ってい
る姿を、会報を通じてPRして
いきたいと思います。



新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会 前会長 清家 春夫



新年、明けましておめでとうございます。

清々しい気持ちで平成二十九年の新春を迎えられたことをお慶び申し上げます。本年も皆様にとりましてより良き年になりますよう祈念申し上げます。

私は、昨年十二月末で会長を辞し、新年から三橋英夫専務理事に会長をバトンタッチいたしました。三年前に清水正敬会長の後を受けて会長に就任する際、任期三年間のお約束で職を引受け、会員の皆様のお力添えのもと、大過なく任務を終えることができました。

三橋英夫新会長は、専務理事として三年間各種大会・合同稽古等で活躍しながら執行部の中心的な役割を果たし、立派な成果を挙げていただきました。今

後のご活躍に大いに期待しています。

小林潔司前事務局長は、大会運営の準備、事務局の体制強化等で活躍していただきました。

各役員のご活躍とご協力に感謝の意を表するとともに、会員皆様のご協力・ご支援に対し心から感謝し、厚く御礼を申し上げます。

三年間の新たな取組み事業として、発足以来十二年ぶりの会則の見直しと改定、新執行部の充実・強化、勝浦合宿の実施、ホームページの充実による広報活動の強化、大会名称を変更しての二〇一四年日本ベテランズ

国際柔道大会(第十一回日本マスターズ柔道大会)の開催、佐賀県嬉野市での二〇一五年日本ベテランズ国際柔道大会(第十二回日本マスターズ柔道大会)の開催、二〇一四年スペイン・マラガで開催された第6回国際

ベテランズ柔道大会への参加、「日本マスターズ柔道十二年の歩み」記念誌の発行、講道館での二〇一六年日本ベテランズ国際柔道大会(第13回日本マスターズ

柔道大会)の開催、同年十一月アメリカ・フォートローダーデールで開催された第8回国際ベテランズ柔道大会への参加、二〇一七年6月和歌山県白浜町での二〇一七年日本ベテランズ国際柔道大会(第十四回日本マスターズ柔道大会)開催の決定等マスターズ柔道を発展・普及するための活動及び大会・懇親会を通じて会員相互の交流と親睦、国際交流等を積極的に行ってきました。

今後の課題は、新しい若手の人材を加えた新執行部が創立以来の歴史と伝統を継承し、会員の理解と協力を得ながらさらに創造を加え、マスターズ柔道により一層発展させていくことだと思います。

当協会の存在価値は、会長以下各役員、各会員が大会や稽古に積極的に参加、生涯柔道を実践し、柔道の普及・振興に貢献していることにあります。

日本マスターズ柔道協会は、発足以来今日まで十四年の歴史と伝統を築いてきました。

当協会の目的は、生涯柔道を目標とするマスターズ柔道の普及・振興、会員の心身の健全な発展と会員相互の友好親善を図るとともに青少年の健全育成に

寄与することにあります。

今日、日本の柔道人口が減少傾向にある中、平成三十二年(二〇二〇年)の東京オリンピック開催に向けて、日本柔道の充実・強化が大きな課題になっています。その対策の一つが、マスターズ柔道の普及・振興であると思います。

マスターズ柔道を活性化しながら柔道人口の底辺を拡大し、柔道愛好家・柔道の支援者等を増やしていくことが必要です。

マスターズ柔道の裾野は年々広がりを見せていますが、さらに生涯柔道を目指し、継続する人を増やしていくためには、学生時代や社会人として柔道を修業し、その後中断している人達に復帰してもらうことが重要です。

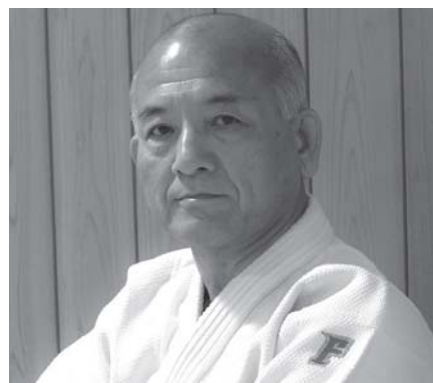
中でも、自衛官、警察官、消防官、刑務官、税関職員等組織的に柔道の振興に力を入れていく団体・個人に働きかけていくことも検討すべきだと思います。

むすびに、新執行部が新たな諸問題にも前向きに取組み、マスターズ柔道の普及・振興のために献身的なご努力とさらなるご活躍を期待しています。

日本マスターズ柔道協会の益々のご発展と関係各位のご活躍をご祈念申し上げます。

柔道について思うこと

副会長 吉成 隆杜(東京都)



リオのオリンピックでは、柔道で獲得できたメダルの数は目標を達成できたようですが、半世紀前の東京オリンピックのヘーシンク対神永戦を見た時に私を感じたことは、「柔道が変わってしまった」ということに尽きます。良きにつけ悪しきにつけ。

良き部分は、IJF加盟国が百九十九ヶ国と、国連加盟国百九十六ヶ国を上回るといふ現状は、スポーツの中でも群を抜いた存在になりました。嘉納治五郎師範が、明治末期から世界各地に柔道家を派遣し柔道を広めた志と功績の偉大さは、計り知れません。

悪しき部分については、半世紀以上柔道を嗜んでいる一柔道家のたわ言としてお読み下さい。

① 何故、中高生の死亡事故が防げないか。

畳を柔らかいものにするば、防げることが分かっているのに、何故全柔連や講道館でその基準作りをしないのか。

半数が大外刈りが原因であることが分かっているなら、子供の大外刈りを、何故禁止しないのか。蟹挟みは禁止したのに。

② 何故、「帯より下に手を触れると反則」というルールを認めたのか。

柔道経験のない者が決めたに違いないこのようなルールを、何故IJFに決めさせたのか。

③ 何故、柔道の試合の種類が少ないのか。

水泳四十六種、陸上四十七種もの競技があるのに、何故柔道では体重別だけなのか。七帝ルールもよし、ブラジリアン柔術ルールもそのまま使える。

④ 何故、青色柔道着が講道館で禁止されるのか
百九十八ヶ国で認められ、

オリンピックや世界選手権でも認めているのに、理由が分からない。

⑤ 何故、日本ではプロの柔道家が生まれないのか。

柔道を教えて生活できるようなシステムが出来れば、柔道は更に進化する。

ファミリー柔道と将来の夢

監事 役田 英穂(埼玉県)



昨年はリオ五輪で柔道界も大いに盛り上がりました。そして柔道始め多くの種目で、ファミリーの支援によってメダリストとなった事例が華やかに報じられました。そんな例とはレベルが全く異なりますが、我が家のささやかなファミリー柔道でも、昨年喜ばしい初体験が三件あり

ました。

① 六月、第十三回日本マスターズ大会に次男が初参加し、二世代同時出場が実現。倶楽部大会や都内大会では過去にもあったが、全国レベルの大会では初めて。しばらく続くか。

② 八月、丸の内柔道倶楽部暑中稽古に、次男が小学二〜五年の孫三人を連れて参加し、父・子・孫の三世代稽古が初めて実現。孫達の礼儀正しく素直な柔道スタイルに満足。

③ 八月、マスターズ勝浦合宿に、長男と中学二年の孫及びその柔道仲間が参加。ここでも三世代稽古実現。初段取り立ての孫に散々投げられ、悔しさと頼もしさを実感。「小人半額」の提案にて実現した中学校柔道部員の合宿初参加。バーベキューも好評。

その昔、三十五歳で四国徳島の会社柔道部の現役を引退し、誘われて地元少年教室、中学校柔道部の指導者となりました。そこに息子二人が相次いで合流し、四国での親子二世代柔道が高校卒業まで約十五年続きました。舞台は関東に移り、次男は丸の内倶楽部で柔道に復帰し、長男は付添人として、共にその子供を地元道場に通わせています。関東での三世代柔道も間も

なく十年となりますが、親・子・孫の同時稽古は初めてでした。

勝浦合宿に参加した孫達が柔道が続けてマスターズ大会に出場するとしたら、あと十五年かかります。私の年齢から十五年後の三世代同時出場はとても無理ですが、彼らの試合は観戦できるかもしれません。更に十年すれば四代目の稽古が見られるかも知れません。それにはまずマスターズ協会・大会の永続・発展と自分自身の長寿が大前提となります。遙か先のその夢に向け、日々の健康保持に努めつつ、眼前の活動に微力を尽くしたいと思います。

高齢社会における

マスターズ柔道の意義

事務局長 森本 薫(神奈川県)



少子高齢化社会の到来が叫ばれて久しいが、確かにこのままでは日本人は平気で九十歳、百歳まで長生きする時代が迫っている。かつての様に六十歳で定年退職し、その後は悠々自適、晴耕雨読でのんびり過ごすことなどは夢のまま夢の世の中になってきた。

これからは健康でありさえすれば、少なくとも七十歳くらい迄働かなければ日本の年金財政がそもそも成り立たない。六十歳、あるいは六十五歳以降を第二の人生と呼ぶならば、第二の人生を充実して過ごすためには、ある程度若いころからの助走期間が必要と思う。それは心の準備、体の準備、社会参加の準備ととらえている。

三十歳から参加できるマスターズ柔道はまさに体の準備に最適である。また柔道を通じていろんな人との巡り合いによって心の豊かさももたらせてくれる。さらに社会参加であるが、何を行うにしてもある程度の先立つものが必要であり、毎年マスターズ柔道の大会に向けて経済的な準備が必要となるが、そのためにも社会参加し、できれば働き、税金を納めることも必要では

なからうか。

しかし何事においても六十歳を過ぎて急に始めても体や心が驚くばかりである。マスターズの参加年齢の三十歳ころから第二の人生に向けて準備をしても早すぎることはなからうか。

昨年より日本マスターズ柔道協会の事務局長を仰せつかつているが、マスターズ柔道が日本の高齢化社会に対する対策の何らかの手がかりになればと思っている。全国の驚くばかり元気な柔道愛好家の皆様に、広く柔道を楽しんでいただける場の提供に微力ながら尽くしたい。

かくいう自分は六十五歳を過ぎ高齢者の仲間入りし、昔は飯よりも稽古が好きだった時代もあるが、昨今はあちらが痛い、今日は天気が悪い等何かと言いつつを考えると稽古に行くべきかどうか自分との戦いを続けている。

「第十四回日本マスターズ柔道大会にむけて」

事務局次長 玉田 誠(兵庫県)



日本マスターズ柔道大会は、平成十六年に静岡県浜北市において第一回大会が開催されて以降、平成二十七年の佐賀県嬉野市の第十二回大会まで、九月から十二月(英語表記でいうところの「Autumn」)のいずれかに開催されてきました。

ところが前回、講道館で開催された第十三回大会では、初めて六月の開催でした。事情はいろいろありますが、過去の大会より何カ月も早い時期の開催となったことで、日程の都合だけでなく体重や稽古など様々な意味で調整がうまくできなかった方もおられたのではないのでしょうか？

六月の開催は、日本マスターズ

ズ柔道協会においても初めての試みであったと同時に、平成二十八年度から新しく事務局長に就かれた森本薫先生におかれましては、第十三回大会が初めての業務遂行でしたので、あまりにも短く限られた時間の中で、前事務局長で現在参与の小林潔司先生と密接に連絡を交わしながらの膨大な執務は、さぞかしお疲れになったことと思います。

平成二十七年より、それまでの十二桁の全柔連登録番号ではなく、九桁のメンバーIDにおいて照会が行われるようになりましたが、所属されている各地の連盟や協会、団体から登録が確定される時期が様々であり、六月開催の大会に向けて個人申し込みは済ませていただいても、登録が間に合うのかヒヤヒヤすることがあります。登録が確認できない場合(登録費の入金が未確定を含む)、事務局で手分けして該当の選手へ連絡を入れさせていただくことがあります。

次回、第十四回大会は和歌山県白浜町において開催されますが、前大会同様に六月の開催となります。申し込みは、第一次受付期間として二

月十三日(月)～四月十七日(月)、第二次受付期間として四月十八日(火)～五月九日(火)となっております。第二次受付期間に申し込みますと登録費(年会費)が高くなります。この会報・大会要項がお手元に届くのは一月末頃を予定していますが、協会内部では六月開催にむけて大会準備は着々と進んでいるはずで

お仕事の関係などで三月に年度末を迎え、四月以降の見通しが立たない方も多くいらっしゃると思いますが、まずは大会要項にしっかりと目を通していただき、早期中に平成二十九年度の全柔連登録を完了のうえで、第一次受付期間内の四月十七日までにエントリーしていただきますようお待ちしております。

FAXや郵送で参加申込書をお送りいただく方へお願いがあります。提出いただいた書類は、事務局においてパソコンへ入力し、インターネットで申し込みいただいた方と同じようにデータ化しています。インプットの際にお名前を入力間違いがあってもいいかもしれませんが、住所を含めた漢字、生年月日や連絡先、メンバーIDの数字などは、明瞭にご

記入いただきますようお願いいたします。また金額欄においては該当項目へのチェックと同時に合計金額をご記入いただき、複数回出場されている方におかれましては、ご面倒でも過去に出場された大会開催地を○で囲んで下さいませ。一人でも多くの柔道愛好家が、和歌山県白浜町での第十四回大会に出場されますことを願ってやみません。

柔道の原点を考える

事務局次長 原 優(東京都)



講道館入門(初段取得時)が一九六九年七月一日ですから、講道館員となって四十七年経過していますが、初段取

得前に三年は稽古していると
思われますので、柔道は五十
年以上のおつきあい、年齢
も六十四歳となりました。

これまでの自分の柔道への
取り組みを思い返しますと、
常に試合に勝てる柔道を目指
した為、立ち技は力を中心と
し、寝技は都合が悪くなると
直ぐ亀となる傾向でありまし
た。

最近、講道館にて古式の形
のご指導を頂いています醍醐
十段より、目から鱗のお話を
頂き、早速取り組んでおりま
す。

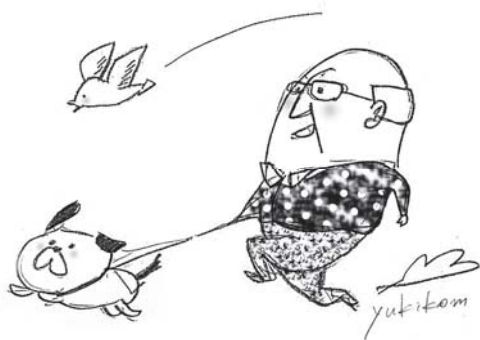
先生が言われたのは、講道
館柔道とそれまでの柔術と大
きく違うのは足技であるとの
こと。先生の若い頃は足技の
名手が多く、小さい人でも大
きく力のある人を面白い様に
投げている芸術的であったが、
最近では力任せに背中を持って
投げる様な柔道が多い、勝つ
為に時には必要であるかもしれ
ないが、昔の様な柔道を見
たいものだとのことでした。

また本年、講道館の寒稽古
の三日後にご逝去された、松
村九段の昨年と今年の二回の
寒稽古をご指導頂いたことは
全てノートに記載しています
が、その中で最も大事なこと

とは、寝技で亀になることは
死ぬことであるとのこと。相
手に背中を向けたら相手の武
器で刺されると思えとのこと。
従って、寝技では常に相手と
正対し足と手で相手をコント
ロールしなさいとのこととし
た。

講道館にて九十歳を過ぎる
二人の素晴らしい先生にご指
導頂いたことは私の一生の宝
であります。

立ち技は足技を中心とし、
寝技は常に相手と正対し、足
と手を有効に使用し、常に相
手をコントロールする柔道を
目指すことを誓います。



二〇一七年

新役員人事

会長

三橋 英夫 (新任)

副会長

内藤 純

西久保 博信

吉成 隆杜

専務理事

浅田 三男 (新任)

事務局長

森本 薫

事務局次長

玉田 誠

田倉 幸夫

原 優

〔会計担当〕

幹事

石井 成明

役田 英穂

新役員よりのご挨拶

日本マスターズ柔道協会

専務理事 浅田 三男 (神奈川)



この度、専務理事になりました浅田三男です。よろしく
お願いします。

第一回開催の静岡県浜北市
の二百名から、現在では七百
名を越す国内外の柔道愛好者
が参加する日本マスターズ柔
道大会を立上げられた先輩の
方々の熱意と努力に敬意を払
います。三橋新会長のもと事
務局と一緒に、微力ではあり
ますが、日本マスターズ柔道
協会運営のお手伝いが出来る
ことを光榮に思っております。

私が、初めて大会に参加し
たのは第五回秋田大会からで
した。所属している丸の内柔
道倶楽部の皆さんがすでに活
躍されており、是非参加した
らと勧められたのがきっかけ
でした。

最初の印象は、柔道を愛す
る中高年者がこんなに多くい
るのかと驚き、その強さに再
度驚いたことを記憶しており
ます。

マスターズ大会は、隔年で
各都道府県持ち回りの開催と
なっておりますので、各地の
名所旧跡を訪れるのを楽しみ
にしています。また、全国の
皆さんと年一度元気な姿を確
認し合い、更なる懇親を深め
ることも大会参加の目的とし
ております。

私を初め、生涯柔道を目指
す多くの柔道マンが、日々健
康で日本マスターズ柔道大会
に出来るだけ長く参加できた
らと願っています。

事務局便り

日本マスターズ柔道協会
平成29年総会及び懇親会への
ご案内

今年の総会は毎年四月二十八日に講道館で開催される全国柔道高段者大会当日の午後五時より、講道館より地下鉄二駅の神保町の学士会館で開催されます。総会の後、懇親会もありますので、全国より高段者大会に参加された会員同士のさらに熱い柔道の絆が結ばれることを期待します。

この高段者大会の参加者はもちろんのこと、段位には関係なく日本マスターズ柔道協会員及びその他の柔道愛好家は是非とも奮ってご参加ください。

尚、参加ご希望の方は会報と同封の申込用紙をご利用下さい。また、当日飛び入りご参加も歓迎いたします。

日時：四月二十八日

(全国高段者大会の日)
十七時～十九時迄

会場：学士会館・東京都千代田区神田錦町3-128

TEL 03-3292-1593 6

※講道館からは都営地下鉄「三田線の春日駅」より二駅「神保町駅」下車A9番出口より徒歩一分です。

会費：六〇〇〇円

申込先：FAX送付先

0501373010846

(日本マスターズ柔道協会事務局)に



90kg級に出場

東京都 久保 雅昭



二〇一六年の『日本ベテランズ国際柔道大会』はM8・90kg級に出場した。

五十代前半から十年間、体重は102kgであった。食べただけ食べ、飲みたいだけ飲んでもそれは変わらなかった。しかし六十歳を過ぎると自然と体重は減ってきた。二〇一五年の嬉野大会では、100kg級に出場したが体重は93kgだった。そして出場選手は兵庫県の安立俊二先生と私のみ。元刑務官の安立先生と水商売のテレビ局OBの私では稽古の貯金が違う。ひと捻りで抑込一本負。しかし銀メダルを頂戴した。

人間というものは贅沢なものでその銀メダルに不満を持った。「一回だけの試合で負けても銀では面白くない!もっと多

く試合をしたい!」、そこで昨年は90kg級に出場することにした。

私の予想通り、九名がエントリー。一回戦で千葉の上木保男八段に旗判定負した。千葉の名門安房高校から東京教育大学体育学部武道学科を卒業。その後教員として稽古充分。日大二高から國學院大學、その後テレビ局に入り、四十三歳から柔道を再開した私とはこれまた稽古の貯金が違う。むしろ上木先生に一本負しなかった自分をほめるべきか。

90kg級出場にあたり無理な減量はしなかった。

今、基本的には一日一食にしている。多少飢えている状態の方が頭の回転も良く、睡眠時間も少なくて済む。朝抜き、昼抜き。そのかわり夜は食べたいだけ食べ、飲みたいだけ飲む。それでも体重は減る。一時は84kgになった。万病の原因は血液の汚れと言われるが食べ過ぎも原因のようだ。『腹八分目で医者いらず』とは良く言ったものである。更には「腹六分目で老いを忘れ、腹四分目で神仏に近づくとか。

一日一食については環境、医療ジャーナリスト船瀬俊介さんのユーチューブをご参考にな

さつて下さい。『船瀬俊介 やつてみました一日一食 たけしもタモリも一日一食』
皆さまの健康長寿をこ祈念いたします。

二〇一六年日本ベテランズ国際柔道大会・第十三回日本マスターズ柔道大会参戦記

兵庫県 山本 昭



六月十八日十九日の二日間、柔道の総本山講道館で開催されました。初日は団体戦で兵庫柔錬会の副将として出場し、何とか一回戦は突破しましたが、二回戦は地元強豪の東京武道館柔友会です。副将戦の相手は現役時代大学で活躍された私より七歳下との情報です。果敢に挑んだものの、優秀は付かず引き分けに終わり、チームは二―三で

敗退です。

翌日の個人戦は90kgに出場、なんと出場選手十名中五名が過去の日本マスターズ大会で優勝経験のある強敵揃いです。

特に三回戦は、十六年四月二十八日の全国高段者大会八段の部で、開始二十数秒で巴投げでの一本勝ちされた先生です。過去二度の対戦では岡山・姫路大会で何とか辛勝しましたが難敵です。

試合開始早々、場外で指導一を取られ万事休す。少し焦りましたが互いに技の攻防を繰り返した直後、主審の『待て』が入り、主審・副審が協議した結果、相手に反則が有り、私の反則勝ちとなりました。

決勝戦は予想通り神菌先生で、過去に三敗しており苦意識が有りますが、試合時間一分過ぎたところで、左大内刈りで技有りを取られ銀メダルに終わりました。昨年の佐賀大会では一回戦指導一の判定負けで悔しい思いをしました。私の尊敬する香川県の来田先生から教えて頂いた『負けたら最後じゃない、諦めたら最後だ』を実践出来て良かったと思います。

マスターズ入会十六年

埼玉県 勝呂 孝

私は発足当時からマスターズ柔道に入会していたので通算十六年になる。この間、多数の皆さんのお世話になり、ご指導いただいた。

発足当時の会長、副会長だった野口宏水氏、清水正敬氏のご苦勞に感謝したい。お陰様で今日のマスターズの発展がある。マスターズ国内大会のほか、海外試合も以下の通り経験した。

- 第七回カナダ、トロント 第八回フランスツール
- 第十回ベネルルクス三国ブリュッセル、ルクセンブルグ、アムステルダム
- 第十二回カナダ、モントリオール

七十歳を境に収入は年金のみとなり、海外試合は苦しくなりました。四回の海外遠征はそれぞれに印象深く、思い出の多い楽しい旅行であった。特にモントリオールでは中村浩之氏の運営する「志導館」を訪問したことが印象深い。中村氏は日本大学出身で、私の郷里出身の柔道家山口友孝氏の後輩にあたる。カナ

ダ柔道界では超有名人である。

又、山口氏もまたメキシコ柔道を十数年にわたって指導し、帰国後、郷里でメキシコ風ペンションを経営している。近年再び招かれて同国大統領から勲章を授与された「メキシコ柔道の父」と呼ばれている柔道家である。

私は山口氏から中村氏に手紙を託され、モントリオールで歓迎された。

その他でも海外で柔道普及に情熱をかけている方々を訪問した。

ラオスでは坂東氏、菊池氏が現地で指導され、インドネシアの仙石常夫氏は同国への長年の功績に対し、本年（平成二十八年）日本の外務大臣表彰を受けたほか、なんと叙勲「瑞宝双光章」を受賞され、彼のバリ島道場他インドネシア全土で今なお柔道を指導中である。

仙石氏が講道館指導員であったところ、お世話になったマスターズの会員諸氏も多いと思われる。この人と高田勝善氏による迫力ある護身術演武は今でも語り草になっている。

これら海外で日本人指導の道場ではすべてオリンピック選手を輩出している。「柔道をしている人たちは皆

親切で優しいね」とクラス会で言われた。

柔道を通じて多くの師、友人を得ることが出来たことを心底ありがたく思っている。

「友人は宝だ」と言った人がいる。お金はなくてもこの貴重な宝を抱いて来世へ登ってゆきたい。

アメリカの大統領選挙後、誰もが先行きに不安を抱く今日、日本伝統のサムライ魂が今こそその揺るがぬ真価を示したいと切に願う。マスターズ柔道の一層の発展を望み、諸氏、諸兄に深謝申し上げます。マスターズ柔道、わが師、わが友



右から2番目が筆者

私とマスターズ「柔道への思い」

兵庫県 北尾 浩



私とマスターズ大会との出会いは、講道館発行の月刊誌「柔道」に掲載された野口前会長の大会紹介記事でした。高年齢でも自由に参加できると知り、第三回岡山大会から十一年連続出場し、何とか毎回メダルを頂いております。島根県での学生時代に柔道と出会い、六年間の部活稽古に励み、曲がりなりにインターハイ出場と三段取得を果たしました。

未熟な私に真の柔道を教えて頂いた最愛の恩師、岡進さん、落合祥成さん。遠く離れた西宮から郷里島根のお二人に対し、柔道との出会いを提供して頂いた御恩を、何十年経過した今でも決して忘れる事はありません。今でも道着を纏えば思い出し、本当に心から感謝の念で一杯です。

卒業後は兵庫県で会社員として勤務し、仕事に追われ機会もなく、三十年もの月日が流れました。平成十六年四十九歳の時、偶然にも地元少年柔道と出会い、クラブコーチ、監督、代表者を経て現在に至っております。小学生指導の傍ら、各種大会にも積極的に出場し続け、何とか生涯の目標とした六十歳までの五段取得と、東京の聖地「講道館」の青畳を踏んで高段者大会へ出場したいとの大きな野望を持つに至りました。結果、夢が叶い、自分の人生を自分の力で極め、思いを達成することの喜びを体験しました。目標を持ち続け努力を重ねる事がいかに大切か、柔道を通じて教えて貰いました。そして今後も、柔道の良さを一人でも多くの子供達に伝えたく、気持ち強く心やさしい、苦しさにも決して負けない逞しい立派な大人へと導いていける様、誠心誠意出来る限りの奉仕をしようと誓いました。私が受けた恩師からの愛情を、これからは若い将来ある子供達へ少しでも伝えていけたらなと思っています。

それらもひとえに、家の用事も全くせず、休日には練習・指導へと出かける私に対して、文句を言いながらも心よく送り出してくれる最愛の家の協力があればこそできる事です。今は照れて言葉にはとても言えませんが、心の中では感謝の気持ちを常に抱いています。周りの支えがあつてこそ、今の私が存在しています。人生常に感謝です。最後に、心身共に健康で来年の第十四回大会への参加が叶う様、今後も日々精進する覚悟です。

変わったこと・変わらぬこと

埼玉県 鈴木 禎



第十三回大会で十回出場を果たすことが出来ました。そこで初回の浜北大大会の頃から今大会にかけて、変わったことや変わらぬことについて思いついた印象を挙げさせて頂きます。

当初、マスターズ大会は前年の国体会場を使用し、全国をまわってマスターズ協会及び大会を認知させ普及していくことを構想しました。それが回を重ねるうちに全柔連が注目するコンテツに急成長。その後、全柔連主管の大会となり、講道館で開催されるようになり、加えて五段以下の昇段対象の試合までになりました。

また当初、階級に無差別級がありました。その試合は日曜に行われ、スケジュール的に土曜の試合に間に合わない場合も出場出来、出場回数を更新するのに役立ち(?)ました。しかし、当然大柄な相手と対戦するわけで試合結果は厳しいものでした。

団体戦は現在、大会の華ですが当初はそうではありませんでした。形と個人戦がメインだったと記憶しています。その記憶を引きずっている為か個人的に団体戦に対してピンと来ていない感覚が今だにあります。が、これは大会の発展を否定するものではありません。

個人的ついでですが、当方は若干の体重減に成功し、昨年から体重別で一階級下の試合に出られるようになりました。試合結果は別にして肉体的・精神的にやはり負担は少くなりました。出来ればもう一階級下げたいのですがはたして・・・? 変わらぬこととして、当初から試合は国際ルールのトーナメント方式で試合数は出場者毎に異なり、既存の高段者大会と一線を画します。これが昇段対象試合になったことは日本柔道において歴史的なことです。その意味においては変わったことかもしれません。

今後に望むこととして、これからも日本各地で大会を開催して頂きたいと思えます。認知と普及は勿論ですが、訪れたことの無い土地で大会が開催されることによりそこを訪れる愉しみが生まれます。国内では神戸より西に行ったことがなかった方が大会のお陰で九州を二度も訪れることができました。北海道や四国も訪れてみたいものです。

地方開催となると、出場者数の少なさや審判員派遣の手間等短期的な問題はあるとは思いますが、変わらぬまま続けていただきたいと願います。

「私と柔道」

鹿児島県 末吉 貴彦



左から2番目が筆者

誠に僣越ではございますが、「私と柔道」と題しまして、簡単なお話をさせていただきます。

二〇一四年九月二十日(土)

と二十一日(日)に、日本ベテランズ国際柔道大会が開催されました。場所は東京の講道館。講道館と言えば皆さんご存じ、柔道の聖地ということ、国内外から約六百八十名もの柔道家が集い、型と試合で技を競い合いました。私は初日の個人戦、四十〜四十四歳のクラスの100kg超級に出場し、お陰様で優勝することができました。まさか、自分が国際大会で優勝するなんて、夢にも思ってもいませんでした。また、翌年、二〇一五年佐賀大会では準優勝することが

できました。これもすべて、周りの皆さんの支えや励ましがあつたからこそだと、感謝の念でいっぱいです。

小学校五年生からはじめた柔道。鹿児島の「林修道館」が、私の柔道の原点となります。その柔道人生の中では、骨折や脱臼等のケガや、仕事のため、柔道から疎遠になりかけたこともありましたが、そういった柵を乗り越えて、すでに柔道を三十三年間も続けていることになりました。段位は柔道五段です。現在は、学校法人池田学園の児童・生徒の指導者として、そして、鹿児島県柔道会館「造士館」で、月・水・金の週に三回、柔道修行に励んでおります。

ところで、みなさんは、柔道を一言で表すとすれば、どのように表すでしょうか？外国の方々の中には、「柔道は哲学である」と言い表す人たちもいます。日本で生まれた柔道が、世界の人たちに認められ、尊敬されている。それだけでも、柔道を学ぶことは、大変誇りあることで、価値あることではないでしょうか。「精力善用」「自己共栄」、柔道の良い点を挙げればきりがありませんよね。これからも、「生涯柔道」を貫き通すとともに、職業柄(教職)、

子供たちには、「夢を持ち続けることの大切さ」や「最後までやり抜くことの大切さ」を伝えられたらと考えております。

最後になりましたが、「日本マスターズ柔道協会」の益々の発展を祈念いたしまして、簡単なお話とさせていただきます。

明道館チームここにあり

東京都 今里宏一郎



左から2番目が筆者

マスターズ柔道大会の醍醐味のひとつに団体戦がある。三十代から七十代各世代の五人がチームを組み、他の競技ではまねのできない試合が展開され

しめる。そうではあるものの、チームの編成はやはり容易でなく、特に六十代七十代の選手を確保するのに苦労している。そんななか、私の所属する丸の内柔道倶楽部にはバリバリの六七十代が多数顔を揃えていて、出身校や仕事の繋がりで多方面から声がかかっている。私も団体戦に出場したいと、欠員のあつた福岡の明道館に売り込み

チームに加えてもらった。幼少の頃から東京に住んで居てなんの縁もないのですが、私の出生地は福岡県八女市で、ずっと心の故郷として福岡繋がりを求めていたのが理由です。

より強い絆で結ばれようと、大会前の四月福岡市を訪れ、明道館に一日入門させてもらった。明道館は福岡市中央区赤坂にあつて由緒ある道場です。練習日は火木土で六時から少年の部が始まった。中央に大村館長がでんと構え号令をかけている。準備運動らしきものはなく、いきなり飛んだり跳ねたりと補強運動が小一時間も続いた。始まる前、「一緒にやりますか？」と誘われていたが、乱取りを二人してお茶を濁すつもりだったので断っておいてよかったです。足腰立たなくなってしまう。八時頃から大人の部、仕事を終

えてのやむおえぬ時間帯だ。厳しい条件のもと皆さん頑張っているなど自分の甘っちょろい姿勢に少し反省モード。

明道館チームは佐賀大会では一回戦負けしてしまつたが、東京大会ではなんと丸の内柔道倶楽部Bを下し三回戦まで進んだ。二〇一七年和歌山大会では、さらに上を目指して選手一同心を一つにしている。ご注目あれ。

団体戦 我が道場

神奈川県 齋院志津子



左端が筆者

いつの日か、石井道場でメンバーを揃え、団体戦に臨むこと

が出来たらと願っていた。この度、第十三回日本マスターズ柔道大会でその夢が実現した。

石井道場は神奈川県藤沢市にあり、来年は六十周年を迎える。幼児から前期高齢者までの門下生は、大きなファミリーのように、温かな空気が流れている。三十代の選手は、新福さん。

サムエル・ウルマン「青春」

千葉県 伊藤 久雄

私は昭和四十年四月に三菱化成工業株式会社「現三菱化学」に入社、北九州黒崎工場に赴任した。

独身寮で先輩の部屋を訪ねると、部屋の板壁にこの「青春」がマジックで落書きされていた。この詩に出会ってから非常に感銘を受け、それ以来多くの人々にコピーを配布してきた。

GHQ（連合国軍最高司令部）のマツカサー元帥の座右の銘として知られ、多くの日本人に翻訳されたが、岡田義夫の名翻訳で一般的に流布された。

青春

サムエル・ウルマン 岡田義夫訳
The Reader's Digest 版「Youth」の訳詩

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てたる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。

(中略)

人は全くに老いて神の憐れみを乞うる他はなくなる。

小学三年生からの門下生。高校、大学と柔道で活躍し、現在は小学校の教師として働き、二児の父親である。忙しい中を週度度の稽古は欠かささない。本気モードにすぎさま入れ、負けることを好まない。四十代の選手は渋谷さん。五人の男の子の父親である。そして、五人とともに柔道に励む柔道

一家だ。初めは、付き添いで来ていた渋谷さんが柔道を始め、八年かもしれない。熱いハートの持ち主である。五十代は阿部さん。宮城から十八歳で上京し、以来の門人である。本当は六十代になっていくが気持ちも若い！ 美しい打

込み、指導力にも定評がある。トレーニンングとしてランニングを続けている。六十代は、夫である齋院。柔道をこよなく愛し、多少の故障にもめげず、試合出場を決めると稽古は休まない。七十代は、この道場主である石井先生。週三回、三時間の指

**2017年日本ベテランズ国際柔道大会
(第14回日本マスターズ柔道大会)**

- 【期 日】 6月17日(土) 18日(日)
- 【会 場】 白浜町立総合体育館 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町29-3)
- 【試合日程】 6月17日(土) 午前：形競技／午後：団体戦(男女)
6月18日(日) 終日：個人戦／年齢・体重別(男女)
- 【参加資格】 30歳以上の全柔連・日本マスターズ柔道協会登録すみの日本人及び在留外国人男女
- 【参加費】 試合の部：個人戦・団体戦の2種目以内6,000円、形競技の部1種目4,000円・2種目6,000円
- 【申込方法】 Web・FAX または郵送
- 【申込受付期間】 1次申込み：平成29年2月13日～4月17日
2次申込み：平成29年4月18日～5月9日
- 申込・問合せ・資料請求先
日本マスターズ柔道協会事務局 (Tel: 090-4022-5992 Fax: 050-3730-0846)
(詳細は当協会のホームページで大会要綱をご覧ください (http://jmja.jp/))

導を続ける。普段の優しさとは別の、試合の顔がある。平坦としてはいるが、かなりの負けず嫌いに見える。

そして、監督は私。皆を信じ、怪我をしないように祈る。

試合は、それぞれの力を出し切った人、上手くいかなかった人、楽しんだ人、色々。結果は一回戦敗退だった。勝

よりも負けた時の方が学ぶことは多い。敗因を探り、弱点を強化すればいいだけのこと。

また来ようね！ 柔道を続け人生に活力を頂く。皆様に感謝を！

マスターズ柔道の仲間として

東京都 三上 貴士



私が初めてマスターズ柔道大会に出場したのは、第二回の埼

玉原上尾市大会です。

以後、講道館における第十三回大会まで、計十一回出場しました。

その間、最初は81kg以下級に出場をしました。その後二回目～五回目までは、73kg以下級に出場しました。

六回目は、66kg以下級に出場し、以後、七回目～十一回目までは、現在の60kg以下級に出場しています。

このように、最初は体格も良かったのですが、六十歳になってからは、自然と体重が減って、男子の試合の最軽量にまでなりました。

すると、パワーがなくなり、また「受け」も弱くなっていききました。

過去の試合結果が示すとおり、減量してからは良い成績が得られません。

あちこち怪我の影響もありましたが、勝負が出来なくなってきましたように思います。

そうは言っても「生涯柔道」との思いを強くして、毎週二回は柔道着を着るようにし、更にジョギング等で私なりに体力の強化維持に努めています。

今後もマスターズ柔道の一員として、修行していきたいと思っていますので、今後ともよ

ろしくお願い申し上げます。

最後に会長をはじめ、役員各位のご尽力に敬意を表わすとともに、本会の益々の発展を祈ります。

家族に感謝

愛知県 山口 光男



今回の出場で十一回連続出場となり、自分ながらよく頑張ったなあと思うと同時に、家族の支えがなかったらここまで長く出場はできなかつたとも思いません。

毎回大会には妻はセコンド役で同行し、常に試合の内容をビデオ撮影してくれました。そして大会終了後は家で同じ柔道の道を進む息子を交えて、ビデオをみながら大会の反省会をし、次回の大会に備えます。長い間この繰り返しで家族全員私を支

えてくれました。

そんな家族の支えもあり第十二回大会（佐賀県）は個人戦で優勝することができました。

この家族の存在があったからこそ優勝できたと思います。表彰式後は何よりも先に妻の胸にメダルをかけ今まで支えてくれたお礼を言いました。自分のためだけでなく応援してくれている家族のためにもなれば力も倍増し、集中して試合ができるのです。

大会では上位入賞を目指すのはもちろんですが、地方大会が多いマスターズでは各地の観光、温泉も兼ねた旅行も重要な要素であり、その側面が支えてくれる妻への恩返しかと思っております。

今後大会には体の動く限り生涯柔道として出場したいと思っています
大会の準備、運営に携わる関係者の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



日本マスターズ柔道と私

青森県 対馬 勝美



私が日本マスターズ柔道大会に出場したのは第五回秋田大会が最初で、恩師の太田尚充先生の紹介でした。同じ年代と体重別という中で、試合結果が銀メダルになり、柔道の喜びを感じました。

私の仕事は、公共の橋梁工事の現場責任者をしています。（飛鳥建設株式会社）仕事では出せない様な職業の方々（警察官、刑務官、教員、自衛官、整体師の先生...）との試合後の柔道談義に花が咲くのも、このマスターズ柔道大会が有るおかげだと思えます。日本マスターズ柔道大会は、国体開催の翌年に開催地で行うことが多く、国内旅行好きの家の内願もあり、家内孝行が出来、我が家の年間行事の一つになりました。また、

単身赴任が多いのですが、転勤先でも柔道関係者のお世話になり、昔からその地域にいるような扱いをして頂き感謝です。（山形県、兵庫県、青森県...）嘉納先生の深さを感じます。

最近、稽古不足でケガが多いのですが、稽古不足に成らぬ様身体の続く限り、「継続は、力なり」をモットーに日々研鑽を重ねて、生涯柔道に携わり続け精進していきたいです。

大きな大会を企画・運営されている協会の先生方に深く感謝を申し上げるとともに本大会の益々の発展を祈念しております。

第十三回

日本マスターズ柔道大会出場

兵庫県 中山 幸久

私は六歳の頃より柔道を始め、今年で四十一歳になります。単純に柔道が好きなので続けてきましたが、三十歳を超えたあたりから、練習を十分に行えない環境にあることや、試合に勝てなくなつたこと、歳をとつたことなどを理由にいつ柔道に携わ

ることを辞めようかと思っ
たところ、平成二十一年に西日
本実業団柔道連盟より近隣国の
柔道普及拡大を目的とするラオ
ス柔道指導派遣メンバーとして
参加させていただくこととなり
ました。

ラオスの方々は、雨が降ると
雨漏りがするような道場で、練
習するには十分な環境では無い
のに関わらず一生懸命練習をし
ておりました。日本からの指導
者から学ぼうとする姿勢など、
ラオスの方々に教わったことのほ
うが多かったような気がします。

ラオスでの柔道指導を終え、
柔道に携わることを辞めるとい
う選択肢が自分の中で無くなり、
可能な限り柔道を続け、柔道に
恩返しをしようと思えました。

マスターズ柔道大会は、その
中でも目標をもって自分自身が
勝敗にこだわり挑める大会であ
り、また、勝敗に関係なく柔道
を通じた交流なども行えるすば
らしい大会であると思います。

私はこの先、歳をとって試合
に勝てなくても試合に出なくて
も、礼儀や挨拶などをしっかりと
行える柔道家でありたいと思っ
ます。そして、どのような立場
であっても柔道に携わり、生涯
柔道を自分自身の目標としてい
きたいと思えます。



真ん中が筆者

マスターズ柔道に出会い生涯現役

兵庫県 馬場猪虎雄



日本ベテランズ国際柔道大会
(第十三回日本マスターズ柔道大
会)に出場出来たことは、私自
身驚くとともに病院の多くの諸
先生方に感謝しております。

一昨年の七月に心臓の冠動脈
に繋がる一本の血管が詰まり、
不安定狭心症と診断された。手
術後徐々に体力を回復し、柔道
が出来る喜びを実感したのが、
去年の春頃からでした。

実業団柔道の現役を二十四歳
で引退後、しばらく柔道から離
れ、その後幾度か仕事の関係で
長期に柔道から離れていった時
期があり、柔道をすっかり忘れ
ていました。

会社を定年退職(六十才)し
た直後に、池田正男先生からお
誘いしていただき柔道着を再度
着るチャンスが訪れました。

マスターズ柔道大会は大分大
会に初参加しました。中本啓二
先生、池田正男先生にお誘いさ
れて一緒に出場したが、試合
をするのが久し振りで試合の結
果をほろ苦く思い出します。

その後柔錬会の中村古先生、
大矢八平先生、山本昭先生をは
じめ多くの諸先生や、地元の間
田庫二郎先生、美濃岡清三郎先
生、更に大会で戦った久保雅昭
先生、坂東正邦先生、佐々木安
廣先生そして清家春夫会長や、
全国の諸先生方とお知り合う事
が出来ました。

初めてお会いしたにも拘らず、
旧知のごとく暖かくお仲間にお
い入れていただき本当に嬉しく

感激しました。これがマスター
ズ仲間かと感心した次第です。
現在は諸先生方とマスターズ
柔道大会や全国高段者大会で再
会する事を楽しみにして両大会
に参加しています。

この年齢(六十九才)まで柔
道が出来る喜びを噛みしめ、健
康であるかぎり、生涯柔道現役
を目指している今日此の頃です。

初心時から現在まで、柔道を
ご指導してくださった先輩諸先
生や、いつも私を励まし、見守り、
応援して呉れた両親や妻、子供
達、この度の寄稿を機に私の柔
道生活を振り返り、指導してく
ださった恩師や関係する多くの
練習仲間にあらためて深く感謝
をいたします。

マスターズ柔道について

福岡県 松山 尚浩



私が日本マスターズ柔道大会
に初めて出場してから十年が経
過しました。

その間、年齢とともに衰えて
いく体力、気力をいかに現状維
持にするかを考えながら稽古し
て来ました。あまり無理をせず
ちよūd良い位の余裕を持つ事
が長続きをする秘訣かなと最近
体感した次第です。

マスターズ大会に出場して先
輩方の試合を見学していると柔
道に対する熱意に敬服し自分の
柔道に対する甘さを痛感してお
ります。

これからも生涯柔道を通じて
お互いの健康と長寿の交歓、夢
と感動の舞台で交流を深め新た
な一歩を踏み出したいと思っ
ております。



中高年者が転倒したとき頭部を守る勉強会

茅ヶ崎柔道協会 清水勝彦



<勉強会を開催するまでの流れ>

1. 最初に思い付いたこと

現在の柔道指導者は、有段者でも稽古中に事故が起きて蘇生法を知る人がとても少なく他人任せの風潮にあり、試合中に事故が発生しても審判員は処置が出来なく、急務係りのドクターが処置をしなければならない。

3段、4段の指導者に聞いてみたが、試合中や練習中に絞められ気を失ったときどう処置するのかと尋ねたらホッパタを叩いて蘇生さすと答えた。柔道も国際化したためか日本古来の蘇生法である活法はどこかに消えたのであろうかいささか心配です。

私は地方にいる6段の後輩に電話で活法の話をしたとき、活法って何だと聞いて来た。活を入れる事は認識していたと思うが活法と言う文字が理解出来なかったのかも知れない。そんな事を疑問に思いながら柔道を志す仲間と整復師の先輩達にも参加して頂き活法と緊急時の処置についての勉強会の開催を企画して茅ヶ崎市の広報で呼びかける事を考えて市のスポーツ課に相談した。

2. 勉強会の見直し

市からは内容が専門過ぎて柔道協会の宣伝に過ぎない。一般市民と一緒にやる勉強会でなければ広報での呼びかけは出来ないという見解が示された。

そこで一般市民の役に立ち一緒に勉強する勉強会について考えた。

柔道には投げられても怪我をせず、事故にあっても身を守る受け身、頭を打たない護身、そして寝技のトレーニングがある。これらを分析、工夫して中高年者が転倒したとき頭部を守る勉強会にすることにした。

3. 第1回勉強会

1. 期 日 平成28年5月22日
2. 場 所 茅ヶ崎総合体育館
3. 参加者 市民、指導者を合わせて26名
4. 内 容
 1. 高校柔道部員の受け身の見本演技
 2. 頭を守るための首筋力運動
 3. 足首、膝、股関節の下半身運動
 4. 膝を抱えて体を丸めた後回転

4. 第2回勉強会

1. 期 日 平成28年9月11日
2. 場 所 茅ヶ崎市総合体育館
3. 参加者 市民、指導者合わせ54名
4. 共 催 茅ヶ崎市役所スポーツ健康課
茅ヶ崎柔道協会
5. 協 力 日本マスターズ柔道協会
小出ボランティアセンター
茅ヶ崎高等学校
日本マスターズ柔道協会、三橋専務理事のご挨拶を頂きました。
6. 内 容
 1. 中高年者が人と人のとの接触で怪我をしない転倒方法。

2. 自転車で転倒したとき怪我をしない転倒方法。
3. 車の追突による頭部強打の防止方法。
4. 階段を踏み外しても頭部の強打を防ぐ方法。
5. 階段から後転しても後頭部を打たない方法。
6. 柔道整復師担当員による骨折による応急処置について。
7. 消防隊担当者による救急処置について。

5. 第3回勉強会について

日本マスターズ柔道協会が行っている国際ベテランズ大会は、30歳以上～後期高齢者まで参加出来る最も健康な人達の集まる競技大会です。その健康な柔道家の集まりでも中高年になると筋力の衰えは免れません。

まして首・腰・膝など筋力など鍛えていない普通の中高齢者になるとバランス機能の低下や下半身の衰えが重なり、少しの衝撃を受けただけでも転倒し顔面や頭部を打って、それが大怪我になるケースが多く、命取りになり兼ねない場合もあります。

怪我を防止する上で転倒しないことが一番大切なことは言うまでもありませんが、普通の中高齢者が転倒しないための平行感覚を養い筋力を体に蓄えるまでには時間がかかります。

本勉強会の真の目的は、柔道のいろんな筋力運動や受け身を応用して、いかに無理なく一般の中高齢者の体力アップに役立てるか、平行し、不幸にも事故に遭遇した場合は、自分の身を最大限に守り、怪我を最小に食い止める為の「より効果ある転び方」につき日夜、工夫・研究を重ねています。

今後もこの勉強会を続けることで地域社会への恩返しとなり、その結果が柔道底辺の拡大に繋がって行くことを切に願っています。

日本マスターズ柔道協会の諸先輩方々の貴重なご経験やご高説を伝授頂ければ真に幸いです。

第3回の勉強会は平成29年1月末頃に行う予定で進めております。



私にとっての

日本マスターズ柔道大会とは

福岡県 前澤 一吉



私は、小学校の低学年から近所にあった中原共和会道場で柔道を始めさせていただき、かれこれ半世紀の歳月が過ぎました。決して誇らしい柔道一直線の人生を送った訳ではないため、日本マスターズ柔道大会に参加される各年代各階級の猛者の先生方と同じ土俵に上がれる機会を作っていただいたことについて誠に感謝しています。

私は中学校から大学及び社会人で他の競技（野球、アメリカンフットボール、パワーリフティングなど）をしていた影響で本格的に柔道をする機会は恵まれませんでした。

しかし、柔道が好きなので、月一回の程度ですが稽古を継続していました。その結果、他の

競技においてもある程度の成果を得ることが出来ました。これは、柔道により培った、強い精神力、屈強な身体及び安定した体幹バランスなどを手に入れることが影響しているからだと思っています。

また、本格的に柔道を再開したきっかけは、息子が三歳から吉田道場に入門し、私もお手伝い程度ですが道着の袖を通す機会を得ました。その後、息子が小学校入学を機に国士館柔道教室に移籍し私も一緒に入門しました。この教室の先輩方が積極的に試合に臨んでいる姿を見て、本格的に大会（紅白試合、高段者大会、講道館月次試合、地域大会など）や昇段審査に挑むことになりました。その間、転勤により岐阜県各務ヶ原柔道協会に所属し、現在は福岡県の野間柔道クラブで稽古を続けています。

さて、日本マスターズ柔道大会ですが第九回千葉大会から六年連続出場させていただいています。肝心の成績ですが、第八回千葉大会、第九回山口大会、第十二回福岡大会と三大会で第三位となり私にとっては大変満足行く結果だと思えます。今後は、「優勝を目指して」と言いたいところですが、末永く健

康で参加していきたいと思えます。

最後に、私の家族は決して柔道一家という訳ではなく、たまたまですが、私の父、妻の父、私、息子と柔道経験者（黒帯）なので、出来れば孫（まだいません）が黒帯になり、三世代で一緒に柔道を続けていけたら幸いと思っています。

マスターズ大会と同志社WRJC

同志社WRJC 山城 武史



今般、同志社大学柔道部同期で協会の広報担当理事の内藤光伸氏から、標記タイトルで会報への投稿要請を受け、記録と記憶からしたためてみました。

私は会社（京阪電気鉄道）を平成十六年三月末定年退職。同

志社大学柔道部後援会（OB会）の要請を受け、同年四月から平成二十一年三月末まで五年間の約束で、母校の大学柔道部で後進の指導のお手伝いをしました。

マスターズ大会との出会いは、平成二十一年九月第六回大分大会に会社柔道部の後輩、野口修君に誘われて初参加。この時、内藤氏は応援に来てくれました。翌年の平成二十二年第七回長岡大会には、前年の不本意な成績のリベンジを果たすべく、会社の後輩野口、初参加の甲能武の両君と三名で出場しました。（この兩名はその回数回の優勝を果たしています。）この時内藤氏は、同期の栗田明氏と共に初参加、何と66kg級で優勝。これに刺激を受けた私も、無差別級で優勝できました。試合後脇腹に痛みを覚え、会場で応急措置。帰宅後、肋骨のヒビが判明。腰痛も発症し、歩行も困難に（今も通院中）。以後個人戦出場はありません。

一方、内藤氏は、長岡大会の優勝で協会との関係が濃厚になり役員に就任。平成二十五年世界マスターズ（アブダビ）大会66kg級で優勝し、現在の活躍に至っています。同氏は団体戦参加の為に、同志社OBに依る

チーム作りに奔走。大変な熱意と尽力で、漸くチームが結成され、平成二十六年第十一回東京大会で団体戦初出場となりました。

チーム結成の折、大将（七十歳代）の人選に際し内藤氏の熱心な誘いに断りきれず、今回限りの約束で、家内の反対を押し切り出場を決意しました。当初反対していた家族も「最後の試合なら」と云う事で、妻子・孫ら総勢十名が、京都・大阪・静岡から参集し応援してくれました。有り難い反面プレッシャーでした。試合は思わぬ展開で、前年優勝の神奈川県教員クラブチームを破る殊勲で、チームは三位入賞。これで私のマスターズ大会は卒業（の筈）でした。

翌平成二十七年嬉野大会で、再び内藤氏の熱意に負け再び出場を決意。ところがこれには家内が「昨年、最後と云うから皆で応援にも行ったのに約束違反」と猛反対。これを何とか乗り越え、二回目の出場はベスト8。平成二十八年も、同志社柔道部百二十周年に花を添えたいとの同氏の意向もあり、結局、出ることに成り、結果、団体戦には三回出場しました（家庭内？ご想像に任せます・笑い）。メンバーの内、三十歳代の寺

居大志・武石光陽の両君は、私の同志社指導五年間時代のいわば教え子。四十歳代の尾原弘恭君はその時共に指導に携わっていて現在も監督。

五十歳代の小西康夫君は京阪に入社した奥村茂之君の同期と云う間柄。この四名は、いずれも個人戦で優勝を果たしています。

かようにいくつもの繋がりがや経緯から、同志社WRJCがチーム結成され、三度出場しました。

考えてみれば、同じ大学の柔道部OBが三十歳〜七十歳までの世代を超え二つのチーム結成は、同志社大OBチームが初めてか。これは後輩である現役部員にも何かを伝えることができる意義あることだったと思っています。

中でも、かの神奈川県教員クラブチームとの一戦は、良き思い出。試合を前に円陣を組み、作戦会議。強力な布陣の相手チームの前の三名に対しては、「負けても良いが決して一本負けだけはするな。同時に、誰か一人は必ず引き分けに持ち込め、要は失点を二点に留めよ。さすれば後の二人で二点を取り、内容差で勝つ、これしか勝

てない」と、各人に自分の役割を認識させました。結果、前の二人は、技有と有効による負けに留め、一本負けを回避。中堅は、相手の猛攻を防ぎきり、引分け。これで、会場の雰囲気ガラリと変わり、当に、狙い通りの展開。副将が期待通り一本勝ち。大将戦まで纏れこむことに。大将の心得は、勝ちゲームでは無理しない。チャンスがあれば取る。負けゲームでは何としても勝ちに行く(同点・逆転に持ち込む)です。これは、山鹿中学・高校時代の恩師で名伯楽の吉里武正先生の教えです。

大将戦では、指導差二の僅差勝ち。結果、二対二ながら、一本勝ちが優先され、同志社チームの勝ち。これには、会場がどよめきました。

先鋒・高橋利光、次鋒・尾原弘恭、中堅・長谷川正仁、副・浅田三男、大将・山城武史、選手一人一がそれぞれ自分の役割を認識し、実戦出来たことが勝因。作戦通りの勝利は、同時にチームワークの勝利で、選手も応援席も満足。私も団体戦出場は、会社チームを三十五歳で引退以来三十六年振り。この試合で、団体戦の妙味を改めて味わうことが出来、同時にチームワークの大切さも、尾原同志社

大監督共々再認識いたしました。最後に日本マスターズ柔道協会の今後増々のご発展を心より祈念いたします。

理事 平井 敏雄 (兵庫県)

平成二十八年新年早々還暦を迎えた。年齢区分でM-7になって、やっとマスターズの仲間入りをした気分になった。年頭に三つの目標をたてた。一つ目は五大力さん150kg力餅奉納で歴代最高齢横綱になる事。二月二十三日京都醍醐寺。練習では170kgを五分間耐えた。自信をもって臨んだが前日の雨で湿気を帯び、重たく、挙上中崩れた。あえなく撃沈。

二つ目は同じく年齢区分が上がった全日本マスターズパワー大会で優勝する事。五月二十九日明石。記録は落ちるが慎重に試技を重ね納得の二位。県表彰のマスターズ賞も獲得した。

三つ目はM-7、一年生となる日本マスターズ柔道大会で優

勝する事。しかし、四年前に両膝半月板損傷で正座すら出来ない。一年前に右手首の手術で握力が落ちた。半年前から股関節痛に悩まされ、三つの病院を周りが定まらない状態になった。結果、技が出せない。骨折しても出場したが今回は事情が違う柔道ができないのだ。随分悩んだが今ある使える力で最善を尽くすことにした。今のルールでは、組手と強い体の軸が重要。上体は問題ないので、前腕筋、二頭筋を鍛錬。重心がとれない代わりに動ける体、心肺機能を高めた。ベンチは120kgまで回復し、五試合は動ける体を作った。六月十九日講道館。一回戦、優勢勝。二回戦、どうしても技が出ない、旗判定で負けた。悔しさより、この先柔道が出来るのか不安になった。大会後、気持ちも落ち込んだ。柔道をとつたら、ただの飲んべえ親父だ。すがる思いで恵柔館坂井道場に顔をだした。そこには大矢八平、八段がおられた。先生が還暦の当時私は五十歳、乱取りでことごとく投げられたものだ。パワーの私に先生は柳の木

の枝のような受けと、身のこなしで翻弄された。今、先生はい

つものとおりに淡々と乱取りをされている。日常であり、自然体であった。「不将不逆」の言葉が浮かんだ。過去を悔やまず将来の取り越し苦労をしない。という心構え「今できることを全力でやれ」と先生の姿で教えられた。

M-7になりました。まだまだ、ひよっ子です。マスターズの皆様、ご指導よろしくお願います。ありがとうございます。



第十三回、東京大会について

兵庫県 喜多 康之

私は第三回大会より参加しています。その大会も十三回となりました。参加者の多くは忙しい仕事や家庭がある中、時間を工面され、宿泊費・交通費を工面し、活き活きと参加されています。また、協会の方々、開催地の関係者も本当に気持ちよく素晴らしい運営をされています。選手は勿論、応援者、役員、関係する全ての方に心より敬意を感じ、この機会に深くお礼したいと思います。

当初は個人戦での参加で精一杯でしたが、近年は団体戦にも参加させてもらっています。当初は「東京ガス・大阪ガス」チームで参加していましたが、一昨年から「関西電力」「東京電力」の方をお誘いし「エネルギーチーム」で参加しています。第十三回は二チーム編成しました。チームの目標は、チーム編成時は「参加することに異議がある。楽しくやろう。」と勝利に拘らないものでしたが、実際に負けてしまうと、参加者の「勝ちたい」という闘争心に火が付き、二年目には「一回戦勝利」

に変更しました。しかし、その目標はまだ達成されていません。勝利の難しさを選手全員がしみじみ、目標達成に向け、それぞれが一年間柔道トレーニングに励んでいます。

このように、年齢、体力、柔道経験、環境等がことなる社会人が、自分の意思でチームの一員としての自覚を意識し、それぞれ努力しています。このことがますます「柔道」そのものであると感じています。今後「精力善用」「自他共栄」の柔道マインドを大切に、マスターズ柔道を追求して行きます。ご指導いただきますようお願いいたします。



メダルと子供達と私

千葉県 坂東 雅邦



私は日本と米国とラオスで柔道指導の経験がありますが、いづこも同じで子供達はメダルが大好きです。私自身は若い時もメダルには全く縁もなかったのですが、ある時メダルへの執着心に『目覚め』ました。否、目覚めさせられました。

ラオスでボランテアとしてラオス・日本武道館に滞在していた時です。健診一時帰国を利用してマスターズ大会に出て二回戦で負けてラオスに戻った時ですが、戻るや否やジョーという男子に『センセイ！メダル？！』と訊かれたのです。試合に行つて来ると言った記憶はないのですが、どこからか漏れていたのでしょうか。それだけ周

囲は私の行動に興味を持ってくれていると嬉しい気持ちもありましたが、『ノーメダル』と答えた時のジョーのがっかりした表情は忘れられません。これが『させられ目覚め』です。

そこで、翌年の大会ではメダルに執着しました。とにかく一〜二回戦を勝ち上ろうと言う事で結果は銀メダル。金とはなりませんでしたが、とにかくラオスにメダルを持つて帰れるだけで満足というかホッとしてました。年寄同士の試合ながら頂いたメダルはデザインも洒落ていますし、なにより皆にとっては初めてのKodokanとかIJFとか書いてあるメダルでしたから嬉しそうに見てくれました。

正直私自身も子供の様に嬉しい気持ちも生じました。頑張つて何かご褒美がもらえる事は年齢をとつても嬉しいものです。齢を取る事は細胞が減つて行く事だから子供に戻る事だということもありません。その論に従つて子供の様に嬉しいものとして大事にさせてもらっています。

さて、メダルについては私に新たな課題が生じました。地元浦安の道場に通ってきている南アフリカから来た八歳の少女がいます。英語しかしゃべれないので私と稽古する事が多いので

すが、十一月の市民大会に初出場することになりました。試合前に『勝つたらメダルもらえるの？』『イエス』といった会話もあり『始め！』と共に果敢に大外刈りで攻めましたが見事に返されて一本負け。トーナメントだからそれでお終いです。彼女の落胆は深く大きい。半年後の大会でまた頑張ろう、と言つても涙が止まりません。でもその後稽古に戻ってきて頑張りつづいていきますから、来年は是非メダルに届く試合ができるよう教える側としても気持ちを引き締めてゆきたいと思っています。

最後に蛇足ですがトーナメントでは一回戦で半分の子供が消えます。上記の様に一瞬にしてメダルへの夢が潰える事もある訳です。運営上は難しい面もありますが、勝てない子にも多くの試合経験をさせる仕組みの方が柔道普及発展の為に良い事だと思います。リーグ戦とか敗者復活とかの仕組みも検討に値すると思います。

また小学生の試合には学年別に拘泥せず、体重区分も取り入れてゆくのにより良い方法ではないかと感じています。生育差が激しい為、体格の差が大きいのです。審判をしても『アア、こっちが勝つな』と最初から分

かりますしほぼ一〇〇%その通りになります。安全面からも大きな体重差は危険と言えます。上記のような運営方法の改善も含めて、多くの子供達がメダルに憧れて頑張つて柔道をもっと好きになるようになれば、メダルの効用は絶大になるでしょう。

第十三回東京大会に出場、改めて柔道人生を振り返り

岐阜県 倉野 祐一



勝つても負けても柔道は楽しい、これが素直な気持ちです。当然のことながら、勝てば喜び負ければそれなりに悔しい。だから、マスターズ柔道大会に出場することが人生において一つの目標になっています。

還暦を迎えて臨んだ第十三回マスターズ東京大会、家族が応援に駆けつけてくれた中で試合でしたが結果は第三位。過去二回の講道館での大会でも第十回大会準優勝、第十一回大会初戦敗退という成績で、少なからず悔しさの残る大会でもありませんでした。

振り返れば、静岡県浜北市で開催された第一回大会から出場することができ、第九回の山口大会を除き十二の大会に出場させていただきました。試合の部分では無差別にも二回挑戦する中で残念に思うことは、団体戦に一度も出場できていないことです。団体戦にしか味わえない魅力もありますので、先生方に呼びかけながら今後の目標にしていきたいと思っています。

大会に出場する中で別の楽しみとして、すべての大会でマネージャーのように付き添ってくれる妻と、休暇をとり観光や温泉を楽しむことです。普段は地域の子供たちに指導するため自宅に練習場まで造ってしまった私、好きな柔道を好きなように続けられるのも妻のお陰です。縁があつて先生方に柔道へ導いていただき、妻との出会いにより柔道を続けられる今の私、「感謝」なくして語れない

柔道人生だと思っています。生涯現役を目指し、微力ではありますが少しでも柔道普及に貢献できたら、末永く柔道が続けられたらと改めて思うこの頃です。また、大会を通じて多くの先生方とも出会うことができ、私の柔道人生も厚みを増しています。ほんとうに有難うございます。

こんな想いの中で迎えた第十三回東京大会は、家族から改めて還暦祝いのサプライズ付きの大会となり、何よりも記憶に残る大会になりました。まだ孫も小さいですが、いつかは応援してくれる家族であり、そして柔道家でもあつてほしいと願っています。

日本ベテランズ国際柔道大会に出場して

奈良県 中井 司朗



日本ベテランズ国際柔道大会は、年に一度、全国から三十才

から八十才までの多くの参加者が集まり、真剣に試合に取り組んでおられるので、小生も若い時代に戻り、血が騒ぎ、感動を覚えるのです。また、他府県から出場される先生方にお会いできるのも楽しみの一つであります。

このような素晴らしい大会を運営されておられる先生方のご苦労に、心より感謝申し上げます。有難うございます。

小生は毎年このような素晴らしい大会に参加できますよう、そして好きな柔道を少しでも長く続けられるよう、体調管理に充分気をつけ、また試合で怪我をしないよう、生涯現役を目標に、週に二〜三回は、奈良県の自宅から大阪府八女市にある柔道教室に通い、孫のような可愛い子供達や多くの若い人達に稽古をしてもらっています。感謝であります。

ベテランズ柔道大会 最高であります。

写真の二人の女性は、左が天理高校女子柔道部監督 嶋田美和先生。右が、天理大学OG。北海道旭川中学時代に全日本強化選手だった倉持亜佐美さんです。

素晴らしいチーム力に感謝

愛知県 下部秀幸



左から2人目が筆者

二〇一六年日本ベテランズ国際柔道大会兼第十三回日本マスターズ大会は、愛知県チームで団体戦に参加し、何が何でも優勝するのが目標でした。

先鋒里山・次鋒深井・中堅八木・副将下部・大将二村と、今迄に無い最強チームだと周りからは太鼓判を押されていました。試合は油断禁物、気を抜かないよう激を飛ばす。やはり東京大会とあつて、あちこちで実績の持ち主が勢ぞろい。昨年十月位から私がメンバーに声を掛け、団円で優勝しようとして各自に自覚を持たせ、稽古す

るよう呼びかけました。特に里山選手は、高校・大学と出稽古に励んでくれた成果が出たと感じました。またベテラン深井・八木両選手も確実に取る所は取ってくれたのが勝利に繋がったと思います。苦戦を乗り越え、決勝戦は、四対一と圧勝で優勝できました。団体戦を終えホテルに戻ると一気に疲れはピークに達し、足腰はガタガタになり、アイシングでケアするのが精いっぱいでした。

翌日の個人戦はどうなるかと、不安でしたが、昨年の個人戦では相手の足に触れ反則負けしてしまい、悔しい思いでしたので、今回はミスが無いよう集中して試合に挑もうと、焦らず試合を運ぼうと自分に言い聞かせ、十一回目の優勝となりました。昨年のリベンジが出来たことは素直に嬉しかったです。

しかし今回は団体優勝が一番の想い出です。メンバー四人とも二村監督に良い退職祝が出来たと嬉しさはひとしおです。先生の柔道に対する情熱には何時も心うたれました。

また、最高のチーム力を出せたことにも感激しています。

「マスターズ柔道に参加して」

愛知県 岩田 美喜



私が柔道を開始したのは、四年の子供の末っ子が年長になった年の四月です。半田少年柔道教室で幼児の指導のお手伝いのために始めました。もちろん柔道経験はありません。私なりに一生懸命参加しているのを見て、大先輩である加古先生が、「せっか

く参加するなら柔道の基本動作・受身からきちんと覚えなさい。」と厳しく指導を開始してくれました。一年後には、当時中学生の長女と投の形・柔の形の審査を受け、三十九歳で初段を取得することができました。

加古先生が立ち上げた女性の生涯柔道の会「まわたの会」ものんびりですが続けています。マスターズ参加者も増え、チームとして楽しく参加できています。

マスターズ柔道大会は、千葉県大会に初めて出場しました。

柔の形では三位に入賞でき大変うれしかったことを覚えていただきます。本年度は、柔の形で優勝させていただき、五回出場のお祝いもいただきました。

大会に出場するために、練習日程を組み、練習内容を考え、体調を整え目標をもって挑戦するために動きました。学生時代では、当たり前のことだったので、大人になり日々の忙しさの中で、自分のために目標を立てて行動することはなくなっていたように思います。

柔道をする中で、仲間ができて、先生ができて、頑張るということを思い出し、悔しい思い・嬉しい思い、このような素晴らしい体験をすることができています。

マスターズ柔道大会は、参加年齢に制限がないすばらしい大会です。私にとって、目標として毎年の生活の中になくってはならないものになっています。これからは新たな目標に挑戦するために、長く参加していきたいと思っています。



奮闘

新潟県 若月 良夫



二〇一六年のマスターズ大会は、良い年になった。あの岩手の高橋先生に辛勝したのだ。前年は同じM11で体捌きよく、うまく上手に動かされて、大内刈で、見事に取られた。しかし最後に気さくに色々とお話が出来て、親しく出来た。後輩に、本

県の早福八段も勝てなかった先生と試合出来た事を誇らしく話した。年齢が上がると、共に参加者が少なくなり、銀、金メダルが増えてきたが、心身共に弱ってきた。形をやろうと云う仲間がいるが、自分出来るか。頑張ってM11まで来ることが出来た。全国高段者大会、三十四回、マスターズ大会七回である。

今迄、強い選手にあたった。北信越大会での、長野県大森素久先生、岩手の高橋勘十先生、東京の山本健夫先生である。皆人

柄も良く、色々とお話が出来て、尊敬出来た。世界マスターズ大会で活躍している、内藤純先生、片桐清司先生等を大勢知ることが出来、励みになっております。マスターズ大会の縁で片桐清司さん、彦素久仁男先生、団体の近紀会のメンバーと同泊になり、大いに応援しました。これからも健康に留意して、大会に出場したいものです。

マスターズ柔道大会への想い

埼玉県 小池 雅彦



松井八段と一緒に

私とマスターズ柔道の出会いは二〇〇三年。第五回世界マスターズ柔道大会が講道館で開催されると聞いてエントリーした

のである。

以来、埼玉大会、兵庫大会、千葉大会、講道館大会などに出席してきたが、その間、埼玉大会では開催県として大会と懇親会を運営し、佐賀大会では全柔連の立場から大会運営をお手伝いさせていただいた。

マスターズ柔道を通じて広がった人とのネットワークは、四月の全国高段者大会でのものとともに私の大きな財産となっている。

また、二〇一一年の千葉大会の際に、勝浦の日本武道県研修センターで同部屋になった先輩から、マスターズ柔道参加の条件についてお聞きした。それは、

- 健康であること
- 試合に出る気概・気力があること
- 試合に出るだけの練習をしていること

- 家族の理解があること
- 職場の理解があること
- 経済的に余裕があること

私はこれを聞いて、あらためてこの六条件がそろわないとマスターズ柔道には出場できないことを再認識させられ、出場できる喜びを感じた。

この先、年齢を重ねていけば、いつかはこの六条件が満たされな

い時がくるだろう。それまでは、大先輩方を見習って節制と稽古に励み、一日でも長く、柔道衣で畳に上がってみたいと思う。

日本体育大学の山本洋祐先生も、こう言っている。「目標無くして努力なし。努力無くして成果なし」

私が柔道衣に着替えて練習する際の大きなモチベーションとなっているマスターズ柔道と全国高段者大会にあらためて感謝しながら、今日も練習を頑張ろうと思う。

「第十三回、東京（講道館）大会・マスターズ柔道大会」

兵庫県 大矢 八平



マスターズ柔道大会は、浜北市総合体育館で第一回目が行われたのを皮切りに、埼玉・岡山・兵庫・秋田・大分・長岡・日本

武道館・山口・周南・嬉野、そして講道館で三回、連続十三回参加させて頂き、それぞれに思い出がありますが、今年程思い出深い年はありませんでした。

五月頃から左腕が肩よりうえに上がらなくなり、試合の日は刻々と近づいてきますが、左腕は一向に良くなりません。このまま戦えば、団体戦はチームプレーなので、自分が負ければチームに迷惑がかかります。悩みました。そこで柔錬会監督の中村

古先生に相談をしましたが、すでに申し込んでいるので変更出来ないと言われ、それならば、なるべく左腕に負担を掛けない方法が無いものかと色々考えてみたのですが、中々良い考えが浮かびませんでした。時間も無いし出来るだけ左腕に負担を掛けないように戦うしかありません。

その結果、無事四試合が終わり、遂に決勝まで進む事が出来、準優勝を頂く事が出来ました。無事試合が終わり、ホッとしました。また個人戦も決勝まで進み、優勝出来、この大会で私の運を使い果たしてしまいました。このような経験は、二度と無いと思います。

これを機会に、もっともっと精進して柔錬会の皆さんの足を

引っぱり張らないようにしたいと思います。七十歳になったばかりの私ですが、身体が続く限り、柔道の練習を続けて行きます。

最後になりましたが、マスターズ柔道協会の皆様、大会の準備等で、色々とお世話になりました。これからは、マスターズ柔道協会のご発展をお祈りいたします。

出会いに感謝を

秋田県 小坂 重人



私は、マスターズ柔道大会には兵庫県の先生たちが中心となっていて『柔錬会』チームから出場しています。団体戦は、地元開催の秋田大会で出場し、その後、新潟大会、千葉大会には個人戦のみのエントリーでし

たが、千葉大会で個人戦無差別級終了後に、「欠員が生じたチームから団体戦出ない？」と大会を通じて友人となり、個人戦で対戦した福岡県の原口正秀選手と檜山尚浩選手が声をかけてくれました。誘ってもらえた事が嬉しく出場を決め、監督の中村古先生にご挨拶すると、「勝ち負けに拘らんと、楽しんでらえんや。」とのお言葉を戴き、楽な気持ちで団体戦に出場しました。大会終了後には中村先生から「来年も一緒に出よう。」と誘って戴き、翌年の山口大会からは柔錬会のゼッケンを背負い出場し、第十三回大会では、団体戦準優勝することが出来ました。

個人戦は、年齢、体重別なので試合をする毎に同年代の人たちとの交流が広がります。必ず勝敗を決する僅差判定なので勝ち負けはありますが、同年代との真剣勝負、試合終了後の達成感は何ものにも代え難いものです。

柔道の稽古は一人でも出来ませんが、試合は相手がいなければ当然出来ません。試合が出来る喜びと、対戦相手に感謝を忘れずにこれからも気力、体力の続く限り大会出場を継続していきたいと思っています。今回の和

歌山大会では、どんな出会いがあるのか、今から楽しみます。怪我をせずに大会を楽しめるよう、雪かき、屋根の雪下ろしという名の稽古をして春を待ちます。

柔錬会で揃えた「J」シャツの胸には『和』と『NO JUDO NO LIFE』（柔道無くして我が人生無し）の文字が入っています。これからも、大会を通じて出会えた皆さんとの和を大事に、そして家族、仲間を大切に、生涯柔道が続けていけたらと願っています。

柔道形競技との出会い

大阪府 入江 浩正



現在、私は柔道整復師を養成する専門学校で教員を務め、柔道実技の授業を担当しております。柔道整復師とは接骨院等の先生とされる国家資格です。柔道を通して身につけた力学的な技術や知識、感覚を応用して、骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷などの急性外傷に対して治療を行うものです。また、当然のことながら柔道精神や礼法を学ぶことで、医療人としての資質形成にも役立っております。

このことから資格を取るためには、必ず柔道をしなければなりません。しかし、近年は柔道経験者の入学が少なくクラスの内割は未経験者の為、初心者を対象に柔道実技の授業を行っている状況です。その為、初心者にもわかりやすく技の理合いや原理を理解して技術を身に付けてもらう為に、受身の指導が終った頃から投の形を指導しています。

投の形は、ご存知の通り初・式段への昇段の際に必要な形です。以前は、自分が形をするときはあまり細かいところまで気にしていませんでしたが、いざ指導をしていくと自分が行っていた技の動きには理合いがなく、自分の技について多くの疑問を感じてきました。

そこで、「自分が本物を知らなければ指導できるはずがない」と、改めて形の勉強を始め、それと同時に自分の技が正しく理解・表現できているのかを判断するために、柔道形競技に参加することを決めました。

これが、私の柔道形競技に参加することから約一年間、柔整の学生時代の恩師である「上瀧 亨先生」に御指導を仰ぎながら形の相方をお願いし、競技会に臨みました。結果は、全日本柔道形競技大会の近畿予選では散々な結果でした。しかし、その後も上瀧先生から根気よく御指導をいただき、そのうえ「マスターズに出てみないか」と誘っていただけいたおかげで、第八回日本マスターズ千葉大会において投の形で優勝することができました。それから六年間、形の種類は変わりましたがマスターズ大会に参加させて頂きながら、全日本柔道形競技大会にも二回出場（固の形）させて頂いたとき、現在に至っております。

これからも、学生への柔道形の指導と同時に、柔道形の必要性認知と普及・発展のために、微力ながら努めていきたいと思っております。

次の大会では、より多くの方

が形競技へ参加していただくことと、一人でも多くの方が形の持つ魅力に気づいていただけることを願っております。

マスターズ柔道と私

東京都 小野 三典



右から二番目が筆者

日本マスターズ柔道協会創立

十五周年おめでとうございませう。東京ガス柔道部の小野でございます。私とマスターズとの関わりは二〇一一年に千葉県勝浦市で開催された第八回日本マスターズ柔道大会から始まり、六年間続いております。そのきっかけになったのは同じエネルギーカンパニーである大阪ガス柔道部からの誘いを頂いてのこと、大阪ガス柔道部には大

変感謝しております。自分の実力も知らずに、まあ何とか戦えるだろうと安易な気持ちで参加を決めてしまったのが第八回勝浦大会。ところが試合をしてみると、相手は、流石に優勝を目指し常に練習を重ねている選手とあって、若さとパワーが予想を超えていた。また警察官、自衛官、刑務官、柔道教員、実業団の選手や世界選手権出場者などの強豪が出ていると聞いて更に驚いた。

私の成績は二〇一一年第八回千葉M6無差別級の出場から第十三回M7・73kg級の出場まで六回参加。銅メダル2個、銀メダル1個を獲得出来たが、常に上位に進出する強豪選手との実力の差を感じた。私が金メダルをとるのは夢のような話であるがその夢に向かってこれからも前進したい。

団体戦では第八回千葉「日本マスターズ柔道大会」に大阪ガス主導のもとで「東京ガス・大阪ガス」の合同チームを組み、初めて参加し銅メダル。その後、二〇一四年から合同チームのほか「東ガス・大ガス・東電・関電」のエネルギーチームとしても参戦し二〇一六年は二回戦敗退の結果で終わった。この団体戦においても個人戦と同様強豪選手

との戦いとなり勝ち進むことは容易なことではないが、エネルギーカンパニー一丸となつて金メダルに挑戦していきたい。

最後にマスターズ柔道を通じて人との出会い、人生の幅を広げてくれた事に深く感謝し、また生涯現役選手としてまた良き指導者として今後も頑張りたい。日本マスターズ柔道協会の益々の発展を期待しております。

マスターズ柔道大会

愛知県 窪田 智之



今年で十三回連続出場となりました。第一回の静岡大会への出場は、中学時代の恩師安田哲雄先生からのお誘いがきっかけでした。

十三回出場を振り返ると、開催地が遠方であり、季節も九月〜十一月と秋の行楽シーズンにあたるため、旅行気分楽しく参加させて頂いています。

愛知県知多半島の五市五町には、道場や少年柔道教室が多数あり、約五百名の少年柔道家がいます。非常に柔道の盛んな地域です。ご存知の通り金メダリストを多く出している大石道場もこの知多半島にあります。

そんな環境の中でマスターズ柔道参加者も多く、毎年知多半島からは二十名近くの先生方が参加しています。小生を含め、既に十回以上出場の先生方や、競技技では加古若子先生を中心とする「まわたの会」から、柔の形での上位入賞者が多数出ています。

各先生方は、日頃、小中学生の指導の傍らに体力調整を行い、一年を掛けてマスターズ大会に標準を併せた稽古を行っています。

稽古時には、高校生を相手に投げられて苦笑いなど浮かべ、昔話で盛り上がりつつある風景が見受けられます。

小生も日々受け身の稽古を行い、体力強化に励んでいます。生涯柔道を唱えながら、孫ほど歳の離れた豆柔道家に稽古を

付けて貰い、息を切らしていません。この豆柔道家達が歳を重ねて、同じ会場で畳の上に立てるように日々稽古をして行きたいと思っています。

来年度の和歌山大会にも、有志を誘って参加させて頂きます、益々マスターズ柔道大会が盛大な大会になる事を願っています。また、地域での小規模マスターズ大会等も企画をして頂ければ幸いです。柔道人口底辺拡大も期待をしています。

・ 訃報

太田尚充さんが二〇一六年十二月九日に永眠されました。

津軽の柔道家太田尚充の生涯

青森県 高橋 俊哉

さる十二月九日、太田尚充先生がお亡くなりになりました。先生は東京高等師範学校卒業以来、永年柔道指導に心血を注がれ、その間、八戸工業高等専門学校監督として全国優勝、また弘前大学柔道部師範として東北優勝等、多くの実績を残され

ています。また、先生は現役の柔道家として終生修行を続けられ、八十歳を越えてなお全国高段者大会、日本マスターズ大会に皆勤出場、さらに世界マスターズ大会では遠くブラジル、ベルギー、アメリカ、カナダと世界を股にかけて活躍でした。

先生はまた武道論の研究者としても著名でした。先生の研究は武道に関する古文書を発掘収集して武道の奥義を求めたものであり、その研究活動はとも息の長いもので、柔道修行同様お亡くなりになる直前まで歩みを止めることはありませんでした。今回、先生の著作を読み返して、あらためて感銘を受けるところが多かったため、ここに一部をご紹介します。

「第一人柄を相嗜む剣術修行仕るべき事」(当田流太刀 起請 文前書の一カ条)

先生の最後の著書「津軽の剣豪 浅利伊兵衛の生涯」水星舎2011の一文です。ここでいう嗜むとは身を嗜む、つまり自分の行いに気をつけることと先生は解説されています。お互いに人格が高まるような稽古をせよということでしょうか。先生に深い意味を教えていただいたことがありますが、先生は続

けてこう書かれています。「人柄」とか「相嗜む」の深い意味などについては、誰かから説明を求める前に、「自分の心」に繰り返し繰り返し、自ら問うことが大事と思われる。

先生自身も自らに問い続けていたということが、その前年の著作を読むと解ります。

「難解な言葉の意味をつき詰めるのも勉強ではあるが、むしろそれを難しい言葉として、そのまま脳裏に捉えておきたいと思っている。その中に、分かり易い言葉で返ってくるのではないかと思う。」(弘前藩の武芸文書を読む 水性舎2010 あとがきより)

小生の勝手な想像ですが、先生における柔道は生涯をかけた研究活動と表裏一体不可分なものだったのでないでしょうか。武道の伝書というのは時に哲学的抽象的なもので単に現代語に訳しても意味不明で、門外漢を容易に寄せ付けないものと聞いています。日々、難解な古文書にウンウンと唸り、日夜、柔道修行に明け暮れる中で先生は武道の奥義に達しようとしていたのかもしれない。

「武芸や武道の修行過程には強

弱難易などの起伏があるにしても、修行に終わりはない。」(津軽のやわらー本覚克己流を誦むー水星舎2009 あとがきより)



享年九十歳。太田尚充先生の長い修業が今、ここに成就したのです。合掌。

小西正弘さんを悼む

千葉県 五十嵐徳英



今年(二〇一六年)二月六日、皆さんに愛された日本マスターズ柔道協会の代表理事の小西正弘さんが逝去されました。これまで柔道を通じ、マスターズ柔道大会にも共に参加した友達として、一文をよせさせて頂きます。

小西さんとは、自分が高校から柔道を始め、二年生の時に一年下で入部してきて以来の、五〇年を超える年月を柔道を通じて交流してきました。その中で共に多くの思い出を残してきましたが、中でも昭和五十八年、お互いに四段に昇段して間もなく、東京都柔道高段者大会で対戦したことが思い出されます。自分は豊島区より申し込み、試合会場に着いたら、対戦相手が小西正弘(江戸川からの出場)とあり、お互いにビックリしました。その試合はお互い全力を出し合い引き分けてでしたが、山形の田舎の工業高校(鶴岡工業高校)で高校時代に一緒に修行した者同士が、講道館の大道場の上で試合をすることになるとは、柔道部のOB会でその後の語り草になりました。

日本マスターズ柔道大会への参加は、共に第二回の埼玉上尾大会からで、その大会では、お互いに初出場ながら、メダルを

獲得(写真はその時のものです)することが出来、その後マスターズ柔道大会に継続して出場するきっかけになりました。小西さんは最近になり体調を崩されることが多くなり、日本マスターズ第十二回(佐賀・嬉野)大会には、試合出場を申し込みはしましたが、事前に足を傷め欠場し、現地には自分(五十嵐)の応援団のような形で参加され、九州で一緒に柔道三昧の時間を楽しみました。年が明け今年には、体調を整え全国高段者大会にも出場すると言い、一月の二金会にも参加し、亡くなられた日も、午前中はご自宅の周りをトレーニングの為走られ、元気にして居られたとの由で、まさに急逝でした。今まで、現役で長い間(勤め先を辞められたのは平成二十七年十月)活躍して来られ、これから柔道だろうが何だろうが自分の好きなことを、好きな時間に取り組み出来る、意気盛んにしていたのが残念でなりません。「残った我々が、小西さんの分まで、精一杯マスターズ柔道に取り組みますので見て下さい」と申し上げ、筆を置きたいと思えます。

合掌

第一三回日本マスターズ柔道大会(東京)を終えて

埼玉県 小池 健三



十二回目の出場となった今年には形と個人戦に出場した。

一、個人戦(M8・81kg) 〓銅メダル。

・一回戦は元警視庁機動隊武道小隊出身の片桐且元先生(優勢勝ち)

・二回戦は初対面の町田敏雄先生(一本勝ち)

・準決勝は同じく初対面の松山幸二先生(優勢負け)

試合の相手をして頂いた先生に感謝である。

次回大会も沢山練習を重ねて誠実に試合に臨んでいきたいと思う。

二、形競技(古式の形) 〓銀メダル(取〓清家春夫先生 受)

〓小池健三)

四月に古式の形の稽古中、「体」で前方回転受身をとった際に、右膝内側の靭帯痛めた。

今大会は右膝の痛みに耐えながらの出場であったが、取の清家先生のリードに、私は受としての防御の役割(理合)に集中することだけに専念した。清家先生から怪我をしないことも重要だと指導をうけていたにもかかわらず、大会前に怪我をしてしまった。今回の銀メダルは醍醐十段・清家先生・口伝会の先生方の指導の賜物と心から感謝している。

三、反省点

栃木県の内藤純先生の計らいにより、昭徳館B(栃木県)チームの副将として団体戦に出場させて頂くことになっていたにもかかわらず、大会当日、私は試合開始時間に遅れるというまさかの過ちをやってしまった。大会関係の皆さま、審判員の皆さま、内藤先生、昭徳館B(栃木県)チーム皆さま、対戦相手だった柔錬会Bの皆さまに紙面をお借りし心からお詫び申し上げます。

今大会で、私は団体戦の試合時間に遅れたこと、古式の形では大会前に怪我したことなど自己管理の甘さから、各先生・関係者に迷惑を掛けしまい、「柔道が続けようか」と迷っていた。そんな気持ちの折、講道館の村田直樹先生から「武道懇談会」

へのお誘いを受けた。最初の講義は「武道の品格」であった。武道の品格とは「武技の修練を通して身につける人としての在り方の美のこと。その美は知・徳・体・情・意という背景からにじみ出て漂い、薫るものである」との指導であった。私はこの言葉に感動し柔道を続ける意義を見出した。これから私は「武道の品格」を備えた人間に成長することを目的に柔道修行を続けたい。

マスターズ柔道のこころ

神奈川県 福盛田立明



今回のマスターズ柔道協会会報への投稿を書くことは、自己の生涯とマスターズ柔道との関わりを改めて考える良い機会だと感謝しています。私にとってマスターズ柔道は、仲間と一緒に

にこころを温める時間と共に、新しい友人を得る素晴らし出会いの場となっています。凜とした空気の中にも和気あいあいと稽古する二金会（講道館）は、我家に帰ったように心が癒されます。稽古で流す汗や鼓動の高鳴りに、健康維持・生涯柔道の喜びを実感しています。また、一風呂浴びた後の「じえびあん」は、反省・乾杯・激励が続く実に楽しい第二道場と言えます。久しぶりに会う友人や海外からの参加者との交流・交歓も、何にも代えがたく嬉しいひと時です。

マスターズ柔道大会を振り返ると、まさに光陰矢の如し、実に様々な出来事が昨日のように思い出されます。記憶とメモに沿って参加した世界・日本マスターズ大会を年度順に整理して見ます。

(1)

二〇〇二年五月、日本マスターズ柔道協会の発足式が東京麹町で開催され、野口宏水初代マスターズ会長と共に、橋本（元）総理大臣を特別ゲストとし、多くの来賓を迎えた祝賀会に参加しました。

続き、私の世界挑戦は、二〇〇二年の第四回世界マス

ターズ北アイルランド大会への初参加に始まり、二〇〇八年第十回ブリュッセルまでで、七回連続出場したことになります。

★二〇〇二年六月「第4回世界マスターズ柔道（ロンドンデリー）大会」

★二〇〇三年六月「第5回世界マスターズ（講道館）大会」

★二〇〇四年六月「第6回世界マスターズ柔道（ウイーン）大会」

★二〇〇五年六月「第7回世界マスターズ柔道（ミッソー）大会」

★二〇〇六年六月「第8回世界マスターズ柔道（ツール）大会」

★二〇〇七年六月「第9回世界マスターズ柔道（サンパウロ）大会」

★二〇〇八年六月「第10回世界マスターズ柔道（ブルッセル）大会」

(2)

なお、国内で開催となった日本マスターズ柔道大会は、二〇〇四年第一回静岡大会を皮切りに、二〇一六年第十三回講道館大会まで、十三回連続出場したことになります。

それぞれのマスターズ大会には多くの深い思い出があり、こうして大会リストを作っている

間にも様々な風景とともに、エピソードを思い出し感動が絶えない気分となります。

言葉・習慣・食事など何もかも初めての異国に出掛け、そして柔道の試合をするのは不安・心配がありました。終わってみると日本と柔道の素晴らしさを改めて確信することが出来たという世界遠征・体験でした。

★初めての海外遠征の第4回ロンドンデリー大会（二〇〇二年六月）は、世界マスターズへの挑戦元年となりました。大きな緊張の中、無我夢中の試合、万国旗に囲まれる表彰

台、日本国の国歌が吹奏される中、首にかけられた銀メダルに湧く感動は生涯忘れることはないでしょう。一方、緊張から解放された後の歓迎会は、実に楽しいエピソード。アイルランド音楽が演奏される中、現地の柔道家と酌み交わす酒肴や柔道談義は、時間を忘れた至福の時間。音楽に乗って踊ったアイリッシュ・ダンスも、昨日の様にこころの中が舞う気分です。

★遠方より友も来る。第6回ウイーン（二〇〇四年六月）大会後、アンデルセン童話の国デンマークを訪問。小川郷太郎大使（夫妻）の暖かい歓迎

に感謝。現地での交流・試合に続き、子供達を交えた懇親会。折り鶴・折り紙をプレゼントし合い、おとぎ国の白夜が平和にいつまでも続くことを願いました。

★ナイアガラ瀑布で健康と長寿を祈願。ヤンキーススタジアムで松井秀喜の雄姿・エンパイヤーステイトビル展望台より眼下の大ニューヨークを展望。椎名道場の訪問など、多くの目的と楽しみを持って第7回ミッソー大会（カナダ、二〇〇五年六月）に参加（願望が叶った）しました。

ブルックリンにある椎名道場の椎名清先生は、日大（柔道部）卒業後、間もなくニューヨークへ柔道指導者として赴任し、椎名道場を設立。半世紀以上に渡り日本柔道の普及・指導者の育成に専念され、多くの五輪・世界選手権のメダリストを輩出されました。

(3)

▼第8回ツール大会（二〇〇六年六月）は日本柔道の素晴らしさを欧州で再認識した大会でした。

勝呂対興梠戦の巴投げの攻防に場内は大きな拍手・喝采で称賛。翌朝の現地新聞のトップは

日本柔道の神髄ここにありと絶賛された。

近年フランス柔道人口は既に七十万人を超え、柔道先進国となった感あり、日本の柔道がJUDOと言う英語に質的にも変化したとの不安な話もあったが、日本柔道の賛辞に胸が高鳴りました。

また南仏プロバンスへの世界遺産の観光。パリ日本大使館へ訪問。パリ文化会館見学では、案内人やフランス柔道家の細やかな気遣いにも、先人指導者の礼法・マナーに触れる思いでした。此の国に日本柔道の技と精神を伝道するために、長年に渡りフランス柔道の発展に心血を注ぎ貢献されて来た日本の先生方・柔道家の偉業に感動・感謝する気持です。

★日本マスターズ第十回(千葉)、第十一回(講道館)、第十二回(嬉野)の三大会において、ニュージールランド・チームの大将として連続して同チームを牽引したのも楽しい国際交流のエピソードでした。私にとつてのマスターズ柔道は、多くの体験・感動・出来事を与えてくれました。此の事は其の後の人生の大きな誇りと自信につながっています。

昨今のシリア紛争に始まる難

民間問題、文化・宗教などが異なる故に、不幸にも起きているテロなど国際環境は、急速に変化しています。国内にも貧困と格差など問題が山積みされていて、どうしても子や孫の日本がどうなるのか心配する時があります。

言葉・文化・宗教など様々な異なりはあっても、「柔道を通してお互いの気持ちは必ず理解し合える」・そんな決意をマスターズ柔道から頂いたと思っております。出来ることは、自分の周りから一つ一つ良い方向に変えて行くことが大事だと実感しています。精力善用・自他共栄の理念を実現するためにもコツコツとした努力を大事にして次世代にバトンタッチして行こうと思っております。

(4)

マスターズ柔道を愛する世界の人達が嘉納師範の理念の下に集まり、言語・文化・宗教を超え理解し合い、手を繋ぎ合うことが出来れば国境を越えて皆が平和に暮し、幸せに成る事が出来ると思っております。

二〇一七年世界マスターズ柔道(イタリア)大会、そして第十四回日本マスターズ(白浜)

大会が益々盛大に発展すること心より願っております。

高年齢者と柔道

埼玉県 毛利 修



二〇一六年六月の大会は講道館で成功裏に終わり選手・役員の方先生方ご苦労さまでした。ベテランズ大会というだけあって、六十歳以上の選手が三割。この年齢層の人達にとつては、まさしく生涯柔道であろう。勿論、高年齢になつての柔道の楽しみ方があるのであらうけれども、それなりに肉体を鍛えることで精神にも良い効果が現れるに違いない。勝てば単純に嬉しいし、負ければこれも単純に悔しい。数年前、ある高年齢の先生の試合を見ていた時、その先生は「有効」で負けて、会場から出てき

て小生に「毛利さん、あれは有効あったかな」と聞かれた。その風情は楽しくてしょうがない、といったものであった。老人も時には勝つためにバカなことをする。これ小生のこと。モントリオールの大会で、その頃両膝を悪くして医者に通っていたので、出かける前に二錠の痛み止めの座薬を持っていった。試合は無事に終わって帰ってきた時、試合場の近くで係員が「このピルどなたか落としましたか?」と聞いていた。まさか私のものです、とも言えなくて更衣室に急いだ。もう時効の話と思うが、座薬は返してもらわなかったが、金メダルをもらった。

文化三年(一八〇六)水野忠通の「柔道中間答」という本に次のような問答がある。

問曰「柔道老年に至りては、業もなりがたしと言えり、当流も佐にあらんや。」

答曰「技の取り回しは、五十歳を超えると、壮年のごとくには成がたし。然れども、心気の事理、天理自然のことは、呼吸の通い歩行のなん限りは変わる事なかるべし。道の位に至りては諸道以つてしかり。」

ドイツの著名な運動学者であるクルト・マイネルは高年齢になると①運動意欲・欲求の減退、

②運動速度が落ちる、③運動組み合わせ能力、たとへば老人は歩きながら手袋をはめられない、など他にも運動能力の低下を認めながらも、老人といえども小刻みにすることができるとし、運動能力の後退をもっと先へ遅らせることができる、従つて「高年齢になつても、身体修煉やスポーツを諦めてはいけないし、またあきらめるべきではない。これによつて、運動系の衰えを先に伸ばすことができるし、結局は「年を取ることがもはや負担にならなくなるであろう」と結んでいる。

先の寺田市右衛門正浄は前書を書いてから三十五年後、名著とも言われる「燈火問答」を書いたが、勝負について聞かれ、次のように答えている。

自分より下手なものに勝つはあたり前、上手に負けるのもあたり前、従つて百人の下手に勝つことは是としなれし、一人の上手に負けることを非と思ふこととはない。百人に褒められないことより、一人に笑われることを恐れる。

来年の大会ではどんなドラマが起きるか楽しみである。

柔道指導者

東京都 一言 力



「柔道技の研究」、「冒険心」と続き三回目を投稿させて頂き、今回は「柔道指導者」を思い浮かべました。

二〇一六年日本ベテランズ国際柔道大会（第十三回日本マスターズ柔道大会）は講道館でしたが、過去を振り返ると地方での大会が多く、それらの風土、環境は感慨深い上に新鮮な事柄を多く目にし、少年少女をはじめこれから柔道を始める人々への指導では、それら柔道技の研究、冒険心、心豊かな経験が大いに役立つ物と考えます。柔道の試合ルールが変われば又、技も変化し、柔道もより進化します。柔道の指導も先達者、先駆者として多くを学び取り、再び指導に役立てていけば、柔道のみならず社会生活においても大

いに役立つのではないのでしょうか。柔道を始めたきっかけは数々有るでしょうが、各々の初心を忘れず大いに楽しんで頂き、その中でも代表選手として大会出場を考えたならば、強化選手ではなく、その上を目指せばと思います。とりあえずは先ず第一歩です。

柔道の試合ルールが変更されて行くその時々、柔道技が進化して行く中で、他のスポーツの要素も取り入れて行けば、ますます柔道が進化して行き、ひいてはスポーツ全般がより進化して行くのではと考えます。

日本ベテランズ柔道大会（日本マスターズ柔道大会）では、これから第十四回、十五回と続き、国際大会も開催され、これらの大会に出場機会が有れば、試合のみならず多くの参加者、地方の人々との交流で新たな世界が広がるでしょう。良い情報は身近な仲間が有ってこそ、本冊子ではなかなか面白い、良い情報が載っているの思いで大会出場者のみならず未出場者にも見開いて頂き、今後の柔道関係の展開に少しでも役立てて頂ければと考えます。今後、多くの柔道愛好者と共に冊子の多いなる活躍を期待します。

第十三回 東京大会について

愛媛県 川野 英二

日本マスターズ柔道協会の皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。

今回の東京大会は、私自身四回目のマスターズ大会でした。大会の一ヶ月前までは調子もよく国体選手の合宿や母校の松山大学への出稽古等で、普段落としている六キロほどの減量もスムーズに進んでいました。しかし、順調な時ほど注意しなければならぬままさかの怪我をしてしまい、柔道人生において過去最低に近いほどの体の状態で当日を迎えてしまいました。なんとか結果は出せましたが、怪我の回復も遅く、自分が思っているほど若くはないのかなと感じる時間でした（笑）

現在私は、町道場の指導をしながら、C級審判とC指導員を取得し、自分のできる柔道への恩返し、そして次世代の子供たちの指導に奔走しております。

マスターズ大会への参加回数が増えるごとに沢山の柔道家との出会いがあり、試合では敵かもしませんが、試合が終われば一柔道家として様々な交流が

でき本当に良い大会だと毎回感じています。

二〇一七年に愛媛県で国民体育大会が開催されることもあり、今大会では国体選手と一緒に愛媛県のイメージアップキャラクターの『みきゃん』の刺繍が入った柔道着で出場しました。柔道着について声をかけていただいたり、少しは愛媛国体の宣伝もできたのかなと思います。（笑）

お時間のある方は国体を見ぜひ愛媛県にお越しください。最後になりましたが、日本マスターズ柔道協会の益々の発展と会員皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。



私と柔道

愛知県 奈良 澄

私が柔道を始めたのは、二十歳の時である。私が入社したのは、一部上場の会社で、野球も強く、全国大会にも出場し、二位になった事もある企業でした。初めは野球をやるつもりでしたのですが、配属された寮の部屋が柔道部の人が多くいる部屋で、どうやら入社試験を受けた時からすでに、柔道部に入れられるように決められていたみたいであった。というのも入社まで私の面倒を見てくれた方が、剣道四段で、柔道部に入部する人を探して欲しいと頼まれていたようでした。会社としても、当時の私の体は、身長一七〇cm、体重六十五キロで、この頃（昭和三十年）としてはまあ大きい方であったし、野球なら三十歳くらいで出来なくなるが、柔道なら生涯できるだろうと、柔道部に入部する部屋に私を配属した様である。

柔道は、会社の社技であり、入った部屋は、一、二、三段の人ばかりであった。まさか新入社員できたのが、未経験者とは思っ

ていなかったようで、二年間は散々かわいがってもらいました。当時の私の心境は、入社することを喜び、送り出してくれた母、兄、友達の手前、帰るに帰れず、といったところでした。滋賀から名古屋までは、今から新幹線で四十五分ほどですが、当時は、田舎物の私としては、遠いところに来たという思いで、泣くに泣けず、帰るに帰れず、こうなったからは柔道でもやるかと言うのが、正直な気持ちでした。

今、六十二年前を振り返って、良くやってきたなあ感慨深い。初めは、早く黒帯になりました。練習に向かうのですが、一年間は受身ばかりで、腐っていると、先生から、「今は受身ばかりと思うかもしれないが、年をとったときに受身をやっている良かつたと思うときが必ず来るぞ、柔道は受身が基本である」といわれたものでした。現在、わたしも子供たちに当時先生の言われたのと同じ事を言っている。

始めた時は、早く黒帯が欲しいと思っていたのが、今では七段になり、道場に顔を出すことも少なくなりましたが、二〇〇三年に、世界マスターズに出場し、銀メダルを頂き、日本マスターズでは、十回出場表彰も受け、今は、柔道をやっている良かつたと思えるようになった。現在、人の車で体調をくずさず、リハビリに専念しているが、いずれ又日本マスターズに出場できるように、元の体に戻そうと思っている。そのため、日本マスターズは年一回であるが、講道館には年十七回は通い、全国高段者大会にはあと三回は出場しようと、体のケアに専念している。



左端が筆者

マスターズで、東北から九州まで出場したのは、楽しい思い出である。マスターズのお陰で私の柔道人生は終わっていないと思っている。森本唯行先生、加藤勤十先生、岡田庫二郎先生、美濃岡先生、お元気で、道場でお会いできるのを楽しみにしています。

日本マスターズ柔道大会によせて

東京都 橋本 和佳



私は現在、東京の丸の内柔道倶楽部に所属しています橋本和佳でございます。

日本マスターズ柔道大会がこうして年を追うことの大盛況の陰にはこれまで、歴代会長以下役員先生方の大変なお骨折りの賜物と存じます。私は本大会に四年前から三回出場し、今回負傷も有り今も稽古休業中ですが、お蔭様で三度目の金メダルを拝受できましたことに感謝を致します。

これも偏に我が稽古場の当倶楽部での生涯柔道を旗印に八十台の先達を筆頭として平均年齢六十台のメンバーとの烈しくも和気あいあいとした週二回の稽古が出来るお蔭であります。多谢。又この先私が何年この生涯柔

道を続行可能かは知れませんが、願わくば最後は畳の上で往生できましたら本望と考えます。

マスターズ柔道について

宮崎県 山田 雅弘



締切日は十二月十五日まででしたが、昨日携帯に電話しましたように、イメージしていた原稿をお届け致します。

今年、宮崎県柔道連盟創立七十周年でした。記念式典・祝賀会は、平成二十八年十一月十三日午後五時開始。会場はホテルスカイタワーでした。当日、県内の柔道関係者が多数出席し、宮崎県武道協議会会長 佐藤彦空様（空手道連盟会長）も来賓で出席されました。昨

年の日本ベテランズ国際柔道大会（嬉野大会）時に急逝された岩田勝彦（八段）前理事長のデザインで、宮崎県のM（アルファベット）と柔道を通じて手を携えて欲しいと言うデザインです」と、矢野吉則宮崎県柔道連盟会長の説明がありました。

祝 宮崎県柔道連盟創立70周年 記念式典・祝賀会



平成28年11月13日(日) 17時開始 ホテルスカイタワー

また、片山俊之旭化成（株）旭陽柔道総務部長の参加の他、県内の柔道関係指導者が多数参加しました。

表彰者は、戦後県内で最初に道場開きをした、淀南道場（現明道館道場）が代表で表彰状を受けとり、見原道生館長が謝辞を述べました。

平成二十八年十一月二十七日（日）は、朝から二〇一六年宮崎県武道祭、第二十九回宮崎県武道振興演武大会が開催されました。（会場：KIRISHI MATSUWAKI武道場、主催：宮崎県武道協議会）。演武の部は、演武開始の太鼓打ち（3・7・2拍子）に続き、十種類の武道が演武され、柔道は、弓道に続く

第二演武で、講道館「古式の形」演武者 取 見原道生七段、受木下勝巳五段、進行者・解説者は、矢野賢悟六段が務めました。

東京二〇二〇年に向けて、オリンピック試合会場の誘致が、河野俊嗣宮崎県知事を先頭に進められています。宮崎県の海岸線は、トライアスロン、サーフィンの試合場、又は練習場の誘致が期待されています。世界は、皆友達のスローガンのもとに、最近JICAは、宮崎市内で県内在住者国際フェスティバルを開きました。マスターズ柔道の仲間もサーフィンスポットの下見に家族と訪れています。

その人は、神奈川県在住の水勝彦七段です。

私は、自己ピーアールと宮崎海岸線の侵食対策への参加とマスターズ柔道参加へのピーアールのため、創立百二十八周年の出身高等学校の同窓会記念冊子に広告を出しました。生涯柔道を目標に、週6回フィットネスジムでトレーニングし、土日は、柔道着を着て同じジムでトレーニングを続ける毎日です。

////////////////////
TBSテレビ「水曜日のダウンタウン」に出演して」

神奈川県 森本 唯行

突然、日本マスターズ柔道協会事務局より電話があり、「テレビ局から、柔道最高齢者対最年少者との柔道の試合をする企画があり、最高齢者を推薦してほしいと頼まれているので出場してほしい」と依頼され、安河内相談役からも「是非出場してほしい」と言われ、受けることにした。

十一月四日午後一時に迎えるのが自宅にきたので乗車、一路千葉県松戸市内の総合体育館内の道場に四時過ぎ到着する。撮影とは不便なもので打合せが大変であった。五時過ぎ対戦相手と対面する。五歳の子供で小学一年生と試合をして負けないらしい。だが大人との試合は始めてらしく、急にお腹が痛い泣き出してしまふ。私は近寄り、孫を相手にする様に「おじさんと稽古をしよう」と言ってお互いに投げたり投げられたり六本勝負の引き分けとして握手をして別れた。基本通りの正しい技を掛けており、末頼もしい子供であった。柔道着に棟田道場とあり、四国松山より上京したらしく、私も四国愛媛県内子町の出身であ

り、同じ町の出身らしく余りの偶然にびっくりした。私はワールドマスターズ世界大会に十回出場して、八回優勝、二回準優勝しており、金メダルを持参していたので子供の首に掛けてやることで子供の記念になったと思っっている。子供の氏名は佐々木翔希(トキ)君。十五年先を見る。

続いて、十一月十日、再度TBSより電話があり、今度は小学五年生で、神奈川県平塚市在住の全国学年別柔道大会で準優勝した真田康志郎君(十一歳)との対戦らしい。TBSでは勝負をさせたいらしい。余りにも勝負にこだわらない。午後三時頃に車が来て平塚に向かう。平塚総合体育館の柔道場に五時前に到着する。康志郎君は柔道着に着替えてお父さんと練習していた。対戦すると全国二位の実力通り基本に徹した柔道をしており、体力もあり末頼もしい子供であった。聞くところによるとお父さんが東海大学柔道部出身らしく、十年先の活躍が楽しみである。三分の試合で引き分けかと思ったが、勝負がつくまで行うようにとのこと。さすがテレビバラエティー番組である。後はテレビの通りである。

注(事務局より)・・・この番組は平成二十八年十二月二十一日(水)

二十二時よりTBSテレビ「水曜日のダウンタウン」で放映されました。各種目(陸上、水泳、卓球、ゴルフ、柔道)で最高齢者と最年少者が競うという企画でした。



右から二番目が筆者

////////////////////
日本マスターズ柔道大会と私

茨城県 羽生 利彦

日本マスターズ柔道協会が二〇一七年には「創立十五周年」を迎え、長い歴史の中から柔道大会の運営や「記念誌」を発刊され、改めて会長をはじめ役員先生方の

ご協力・ご指導に感謝申し上げます。

私と柔道の出会いは、中学校には柔道部はなく野球部でキャチャーをやっており、身体には自信があり体力もあったので、高校に入学してからです。柔道の関わりは約半世紀になりますが、インターハイ・国民体育大会等に出場し、「人としての歩むべき道」を高校の先生から学び、充実した意義ある今日を迎えることが出来ています。柔道を通して国有鉄道の鉄道公安職員になり、その後、国有鉄道はJR東日本が民間企業になり、鉄道公安職員は全員が各県の警察職員で、私は茨城県警察官に配転し、すぐに市役所職員で勤務をし、教育委員会・幼稚園の園長を最後に定年退職を迎え、再びJR東日本女子柔道部を作ると、本社の副社長や役員の方々から要請を受け、最初は一人入部してからで現在は十四人になり、JR東日本の柔道場も大崎に出来上がり、施設を始め、監督・コーチやスタッフも揃ってきました。これらは、すべて柔道との関わりであります。

二〇二三年に始めて柔道教え子の大木塾の塾長先生から、日本マスターズ柔道大会が講道館で実施する為に出場の要請をうけ、団体戦だけ六十歳代の副将で参加し、

二〇一四年には団体戦の六十歳代の副将と個人戦には始めて六十五歳〜六十九歳のM8のカテゴリでエントリーし、初優勝「金メダル」を頂きました。次の二〇一五年は第十二回日本マスターズ柔道大会が佐賀県嬉野市の体育館で開催され、個人戦で「2連覇」し、二〇一六年には講道館で実施する為、「団体戦・個人戦・形の部」でも「古式の形」を演武し、三種目に出場しました。個人戦は優勝し「三連覇」することが出来ました。今度は是非団体戦で優勝を目標に頑張っていきたいと思っております。

私は、柔道を始めて大きな怪我もなく、柔道を続けて全国高段者柔道大会にも三十五回出場し、多くの人とのふれあいが出来ました。そして、マスターズ柔道大会は多くの選手が参加し、また、外国選手も参加され、刺激を受け興味を感じる様になりました。その為生涯体育の一つとして現役柔道を目指して、身体の続く限り日々研鑽を重ね、現在は筑波大学に行つて柔道練習をやったり、全日本強化選手の練習会にも参加をし、あらためて関係者の先生方に感謝をし、自分なりに精進して頑張つて行きたいと思ひます。

に努力したいと思つておりますので、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願ひいたします。有難うございました。



リオ五輪銅メダリスト永瀬選手と教官室にて

三階級制覇+α (アルファ) を目指して

大阪府 今嶋 裕郎



大阪府の今嶋と申します。私は、マスターズ大会において、過去三度優勝しております。二〇一二年

の山口大会の優勝は、私にとって、七年ぶり三度目の優勝でした。実は、これがただの優勝ではありませんでした。第一回の静岡大会で66キロ級、第二回の埼玉大会で73キロ級、そして同年の60キロ級。三階級制覇を達成したのです。今ではすっかり60キロ級に定着しているだけに、一度だけ73キロ級に出場した時に優勝したのが大きかったです。

しかし、優勝したのはその三階級制覇の三度だけ、同一階級で複数回優勝したことはありません。次回は60キロ級二個目の金メダルを狙います。三階級制覇+αを取ります。

そして、二〇一二年には、ワールドマスターズゲーム、すなわちマスターズ世代にとつてのオリンピックが鳥取県米子市で開催されます。世界の強豪たちの多数の参加が予想されます。この大会で、世界一を取ります。

勝負もさることながら、やはり海外の選手たちとの国際交流も私にとって重要です。二〇一〇年の新潟大会では、アルゼンチンのピカテ選手と、私にとつて初の国際試合となる、M66kg級の決勝戦を戦いました。二〇一二年三階級制覇を達成した山口大会の後、韓国・ソウルに旅行し、新潟大会で知り合った、チョイ・ビョングウォ

ンさんにソウルを案内して頂きました。そして、前回の原稿にも書かせて頂きましたが、二〇一五年の嬉野大会の直後は、スウェーデンの選手たちと、我々の道場で合同練習もしました。

もちろん国内の先生方と毎年お会いするのが一番の楽しみです。常連の先生方とは、毎年お会い出来るのを楽しみにしております。新たな先生方との出会いも意義があります。私はマスターズに参加するまで、出身地九州、現居住地大阪以外の方と対戦したことはありませんでした。

日頃接点のない他の都道府県の先生方、そしてマスターズに参加するまで全く縁のなかつた国際交流を楽しみに、毎年マスターズ大会に参加しています

第十三回日本マスターズ柔道東京大会に出場して

東京都 小室 宏二

私が初めて出場したのは二〇一〇年の世界マスターズでした。この頃は世界形選手権大会と共催しており「形のついで」と軽い気持ちで出場しました。当時

は「下半身へのダイレクト攻撃が禁止」された直後であり、海外のマスターズ選手は新ルールへの対応が整っていない状況でした。そのお陰で四試合をなんとか勝ち抜き、優勝することができました。しかしあまりのレベルの高さに「これで自分は勝ち逃げしよう」と思ったのも事実です。

それから数年経ち、興味は持っていたものの出場への機会を逸していたところ、教え子から「先生と一緒に試合に出たい」と誘いがあり、今回の出場を決心しました。(M2・73kg級)

さて普段の私はというと、いわゆる進学校の体育教師として主に柔道を指導しています。柔道部は白帯が中心に六名ほど、廃部の危機はなんとか脱しましたが、柔道界の最底辺をしっかりと支える存在として細々と活動しています。当然、生徒との稽古では汗すらかかないこともあり、強化というよりは「太りすぎないこと」を目的として、ほぼ毎朝7〜9kmのジョギングをしています。また指導の傍ら淑徳大学女子柔道部、ブラジリアン柔術ジム、千代田区スポーツセンターでそれぞれ週一回程度稽古しています。

多くのマスターズ選手が、仕事や家庭と両立する中でいかに稽古に時間を割き、そして試合までに

仕上げる事ができるか、それこそが出場選手にとつての「真の戦い」であるとは考えています。そういつた意味では、今回、充分に仕上げて試合に臨むことができたとように感じます。お陰様で四試合全てを一本で優勝することができましたが、試合後はだらけた生活を送っており自分自身との「負け戦」が続いております。

最後に、今回の出場に際し多くの方に声を掛けて頂き声援を送って頂きました。何より娘の巴（ともえ）に試合を見せることができただけは至上の喜びです。早くこの「負け戦」から脱し、次の戦いに備えたいと思っております。



一年を頑張った総決算、それがマスターズ大会

野口 修



企業に属しての実業団柔道から現役を退き十数年後、子供たちに柔道を教える機会があり、久方ぶりに柔道着に袖を通したのが縁で再び柔道を志すことになり、初めてのマスターズ大会への参加は第四回兵庫大会で当時四十二歳でした。(M3・73kg級に出場)

当時は、自宅での軽微な筋トレやジョギングを行っていたのと、現役時代に培った貯金?でそれなりに戦えるだろうと安易に思っていたの出場でしたが、現実には厳しく予選リーグで敗れ無く敗退しました。(当時は予選リーグと決勝トーナメントがありました)

私はこの時の敗戦で若かりし頃に置き忘れていた闘争心に火が点き、「来年は絶対に優勝してやるっ!!」との一念で、自身が勤め

る会社柔道部での稽古のほか、関係者に紹介いただいた高校や大学への出稽古、さらにはジムでの筋トレで自分自身を追い込み鍛え直しました。

そうして迎えた第五回秋田大会(前回と同じM3・73kg級に出場)。試合直前の足の怪我で不安材料を抱えての出場ではありませんが、一年間頑張ってきたことを思い出しながら試合に挑んだ結果、辛うじて金メダルを獲得することができました。

気を良くして、翌年の第六回大分大会は、連覇を果たすべく今まで以上に気合を入れて稽古に励んでおりましたが、これもまた試合直前に左肩靭帯を損傷するというアクシデントに見舞われ、絶望的ではありましたが、一年間この大会のために費やした時間のことを考えると棄権することなど考えられず強行出場しました。結果は、試合中に肩に激痛が走り一回戦敗退に終わりました。

その後、私とマスターズ大会との関係は、仕事の都合やその他の諸事情で毎年出場できないのが実情ですが、昨年に行われた第十三回講道館大会はM4・73kg級に出場し、金メダルを獲得することができました。

また、私が所属する会社柔道部からは、同部師範の山城武史氏

(七十二歳)と監督の甲能 武氏(五十一歳)も出場しており、山城師範は第七回新潟大会にM8・無差別級で金メダル、第十一回講道館大会団体戦で同志社大OBチームとして出場し銅メダルを獲得、甲能氏は第八回千葉大会をM4・無差別級、第九回山口大会をM4・81kg級でそれぞれ金メダルを獲得しています。(昔は山城師範には体を張って私も甲能氏もかなり鍛えられました)

私は、このマスターズ大会に出場(或いは目標と)することによって大きなメリットが二つあると考えています。一つは、素晴らしい柔道家との良き出逢いです。会場に足を運ぶと、凛とした姿で多くの先生方が元氣よく試合しているのを目の当たりにすると、「五十一歳の自分はまだまだ甘いなあ」と気づかせていただきます。

もう一つは、この大会を目標とすることで年間を通して頑張り通す大義名分ができることです。結果、健康増進とともに心身が若々しくなれるからです。

勝つことが全てではありませんが、大会に出場する以上は金メダルを獲得することが最大の目標であり、日々の稽古やトレーニングを行う最高の動機ともなります。

第二次現役時代の一年間頑張った総決算の発表の場として、でき

る限りマスターズ大会に出場したいと思えます。

「理想を見つつ現実を離れず、しかも現実を一步ずつ向上しなければならぬ。永遠を仰ぎつつ現在を離れず、しかも現在を一步ずつ向上しなければならぬ。焦ってはいけない、油断をしてはいけない。突破!! 突破!! 全てに現状を突破して一路向上すべし!」

最後に、日本マスターズ柔道協会の今後益々のご発展と会員皆様のご健康とご活躍を心よりお祈りいたしております。

・ 訃報

第一回設立大会(浜北)の開催において、当協会が大変お世話になった高柳喜一氏(全日本柔道連盟顧問)が一月五日ご逝去されました。謹んで哀悼の意をさせていただきます。
なお、ご子息の高柳依正氏は丸の内柔道倶楽部において様々な大会に出場するなど活躍しております。

二〇一六年日本ベテランズ国際
柔道大会
(第十三回日本マスターズ
柔道大会)

個人戦結果

(形競技の部)

投の形	1位 取 Y・L・N ユ 香港
	受 K・F・Kワック 香港
2位	取 入江浩正 大阪
	受 吉田勲生 大阪
3位	取 沖 和久 兵庫
	受 森 憲治 奈良
固の形	1位 取 芦田和典 大阪
	受 入江浩正 大阪
2位	取 木之本達明 愛知
	受 大元美久 愛知
3位	取 金子真輝 神奈川
	受 中村行成 神奈川
極の形	1位 取 金藤宏行 香川
	受 溝渕 允 香川
柔の形	1位 取 岩田美喜 愛知
	受 内田みゆき 愛知
2位	取 松本紀子 愛知

3位	取 鈴木由美 東京
	受 老子千晶 神奈川

講道館護身術

1位	取 齋藤英二 新潟
	受 岡田亮一 新潟
2位	取 植木良夫 栃木
	受 古峯弘道 栃木
3位	取 加古若子 愛知
	受 竹澤毅朗 愛知

五の形

1位	取 大木恒毅 東京
	受 阿部雅人 東京
2位	取 毛利 修 埼玉
	受 清家春夫 千葉
3位	取 三橋英夫 神奈川
	受 鈴木常夫 神奈川

古式の形

1位	取 菅波盛雄 千葉
	受 水野博介 愛知
2位	取 清家春夫 千葉
	受 小池健三 埼玉
3位	取 鈴木常夫 神奈川
	受 三橋英夫 神奈川

【年齢別体重別個人戦の部】

M1 60kg級	1位 小松裕樹 静岡
	2位 小野慶多 栃木
	3位 森 憲治 奈良

3位	大山隆弘 香川
----	---------

M1 66kg級	1位 早坂佑馬 埼玉
----------	------------

2位	森 尚毅 東京
3位	PINON VICTOR 東京

M1 73kg級	1位 秋山直太 千葉
----------	------------

2位	横田好史 茨城
----	---------

3位	武石清誉 新潟
----	---------

3位	八山泰光 群馬
----	---------

M1 81kg級	1位 赤迫諒介 大分
----------	------------

2位	片山優彦 兵庫
----	---------

3位	杉本 洋 東京
----	---------

3位	磯田和伸 兵庫
----	---------

M1 90kg級	1位 村上貴洋 群馬
----------	------------

2位	マッコンビー ジェームス ニュージールランド
----	------------------------

3位	高橋益也 群馬
----	---------

3位	中村 亮
----	------

M1 100kg級	1位 岡田建彦 滋賀
-----------	------------

2位	岡本将裕 東京
----	---------

3位	矢根和紀 兵庫
----	---------

3位	堀本祐介 東京
----	---------

M1 100kg超級	1位 武石光陽 福岡
------------	------------

2位	里山裕晃 愛知
----	---------

3位	鈴木武男 千葉
----	---------

M2 60kg級	1位 川野英二 愛媛
----------	------------

2位	藤田涉司 静岡
----	---------

3位	林健太郎 埼玉
----	---------

3位	原田靖也 埼玉
----	---------

M2 66kg級	1位 中山直秀 長崎
----------	------------

2位	室本健吾 東京
----	---------

3位	岡口勝之 東京
----	---------

3位	佐藤英之
----	------

M2 73kg級	1位 小室宏二 東京
----------	------------

2位	高田恵一郎 神奈川
----	-----------

3位	三河良輔 徳島
----	---------

3位	松本邦彦 兵庫
----	---------

M2 81kg級	1位 エスケドロ アレジャンドロ
----------	------------------

2位	メガアス スペイン
----	-----------

3位	明先俊太郎 神奈川
----	-----------

3位	中濱真吾 千葉
----	---------

3位	北井知仁 福岡
----	---------

M2 90kg級	1位 菊地嘉幸 神奈川
----------	-------------

2位	日野康昭 神奈川
----	----------

3位	市川将臣 静岡
----	---------

3位	大森秀吉 東京
----	---------

M2 100kg級	1位 延永竹治 福岡
-----------	------------

2位	佐無田亮 大阪
----	---------

3位	實住幸太郎 福岡
----	----------

3位	深谷俊文 北海道
----	----------

M2 100kg超級	1位 原井利昌 東京
------------	------------

2位	富木軌和 東京
----	---------

3位	郡山卓己 埼玉
----	---------

3位	白井邦行 茨城
----	---------

M3 60kg級	1位 佐藤政美 宮城
----------	------------

2位	小川彰一 静岡
----	---------

3位	田中隆雄 大阪
----	---------

3位	寺内英生 群馬
----	---------

M3 66kg級	1位 中山幸久 兵庫
----------	------------

2位	伊東正治 静岡
----	---------

3位	林 峰裕 愛知
----	---------

3位	松田与二郎 静岡
----	----------

M3 73kg級	1位 市村明彦 神奈川
----------	-------------

2位	小川伸弘 神奈川
----	----------

3位	大西宏明 福岡
----	---------

3位	ハレ マーティン フランシスコ スペイン
----	----------------------

M3 81kg級	1位 千葉記位 神奈川
----------	-------------

2位	大島和也 佐賀
----	---------

3位 伊藤真也 秋田	3位 福田達則 愛知	M3 90kg級	1位 井川清隆 静岡	2位 山口恭史 静岡	3位 バルケス ドミニケス ミグエル	3位 アンジェロ スペイン	3位 秋田芳和 静岡	M3 100kg級	1位 上園義明 大阪	2位 岡 敏宏 栃木	3位 市村安史 埼玉	3位 出口嘉之 大分	M3 100kg超級	1位 浅野宗樹 京都	2位 中島弘司 福岡	3位 野本大道 愛知	3位 アルベルカ プエノ フランシ	M4 60kg級	1位 清水泰平 神奈川	2位 鈴木政明 茨城	3位 船田直仁 大阪	3位 柿原清剛 佐賀	M4 66kg級	1位 田中敏浩 福岡	2位 秋山直樹 福岡	3位 西尾真治 埼玉	3位 鈴木尚 静岡
M4 73kg級	1位 南保徳双 東京	2位 高柳依正 東京	3位 土屋 靖 和歌山	3位 吉田英樹 大阪	M4 81kg級	1位 芳岡博之 千葉	2位 須藤正裕 千葉	3位 伊藤秀和 東京	3位 佐々木仁史 埼玉	M4 90kg級	1位 小坂重人 秋田	2位 キルク バウル ニュージーラ	3位 須田江介 東京	3位 石井一宏 栃木	M4 100kg級	1位 片山幸昌 兵庫	2位 平田和義 大阪	3位 福田博邦 宮崎	3位 高宮和弘 山形	M4 100kg超級	1位 松山尚浩 福岡	2位 仲秋貞博 千葉	3位 野田隆治 大分	3位 佐藤正忠 埼玉	M5 60kg級	1位 小玉 勉 兵庫	
2位 品川雄功 京都	3位 竹下 朗 大分	3位 森田義行 神奈川	M5 66kg級	1位 岡村忠彦 東京	2位 喜多康之 兵庫	3位 中山和文 千葉	3位 松田洋司 三重	M5 73kg級	1位 野口 修 大阪	2位 小川武樹 神奈川	3位 本間 等 東京	3位 油屋 康 東京	M5 81kg級	1位 小西康夫 富山	2位 松本英治 岡山	3位 市原英夫 東京	3位 國吉真登茂 神奈川	M5 90kg級	1位 赤尾信行 山口	2位 阿部雅人 東京	3位 森本正則 滋賀	3位 柳浦康宏 東京	M5 100kg級	1位 高橋俊哉 青森	2位 アリリュウ ビタリー ニュー	3位 カール ハルマン バウル ド	3位 グラス スペイン
M5 100kg超級	1位 八木英雄 愛知	2位 小沼吉宏 東京	3位 窪田智之 愛知	3位 鈴木寛人 神奈川	M6 60kg級	1位 大屋智次 福岡	2位 瀬尾勝哉 神奈川	3位 浅岡一志 埼玉	3位 原田伸治 大阪	M6 66kg級	1位 今野龍一 神奈川	2位 平野嘉一 神奈川	3位 後藤 真 千葉	3位 弓削 清弘	M6 73kg級	1位 上田一美 愛知	2位 小竹邦元 福島	3位 村上和男 宮崎	3位 前田 肇 北海道	M6 81kg級	1位 佐藤英則 東京	2位 青沼 守 東京	3位 金元信善 島根	3位 田所英幸 栃木	M6 90kg級	1位 水野博介 愛知	2位 佐藤克広 北海道
3位 小峰義次 埼玉	3位 高橋洋一 埼玉	M6 100kg級	1位 小池雅彦 埼玉	2位 対馬勝美 青森	3位 児島恭司 岐阜	M7 60kg級	1位 北尾 浩 兵庫	2位 八坂楠夫 千葉	3位 上岡 覚 東京	M7 66kg級	1位 莊司 裕 三重	2位 小久保隆 愛知	3位 鈴木常夫 神奈川	3位 原 優 東京	M7 73kg級	1位 板東篤司 徳島	2位 大塚 忠 神奈川	3位 鈴木善幸 愛知	3位 倉野祐一 岐阜	M7 81kg級	1位 卜部秀幸 愛知	2位 栃本 章 神奈川	3位 太田明男 神奈川	3位 高橋信二 岩手	M7 90kg級	1位 牧岡 卓 神奈川	2位 高木孝順 東京

3位 藤間雅幸 東京	3位 平野相徳 和歌山	3位 山本 昭 兵庫	3位 吉永豊貴 大阪	3位 上木保男 千葉	2位 上野清吾 熊本	1位 上野清吾 熊本	2位 安立俊二 兵庫	1位 橋本和佳 千葉	2位 伊賀信義 山口	3位 清原敬一 大分	3位 石原泉雄 東京	1位 馬場猪虎雄 兵庫	2位 井上数夫 神奈川	3位 見原道生 宮崎	3位 坂東雅邦 千葉	M8 73kg級	1位 羽生利彦 茨城	2位 田島恒男 熊本	3位 久宮登三夫 栃木	3位 木原一郎	M8 81kg級	1位 吉成隆杜 東京	2位 松山幸二 神奈川	3位 紀野修二 大阪	3位 小池健三 埼玉	M8 90kg級	1位 神園修一 東京
2位 山本 昭 兵庫	3位 吉永豊貴 大阪	3位 上木保男 千葉	1位 山本 昭 兵庫	2位 安立俊二 兵庫	1位 上野清吾 熊本	2位 安立俊二 兵庫	1位 大矢八平 兵庫	2位 小泉基靖 東京	3位 大谷光三郎 東京	3位 加藤忠勝 東京	M9 66kg級	1位 井田幹夫 神奈川	2位 増田 洋 大阪	3位 田房豊彦 奈良	3位 山田雅弘 宮崎	M9 73kg級	1位 五十嵐徳英 千葉	2位 城崎 淳 愛媛	3位 西久保博信 神奈川	3位 西尾勝彦 奈良	M9 81kg級 M10 +90kg級と統合	1位 諸山和美 愛知	2位 役田英穂 埼玉	3位 三橋英夫 神奈川	3位 荒木関昌明 神奈川	M9 100kg(M7-8)級 M9 +100kg級と統合	
1位 上野清吾 熊本	2位 安立俊二 兵庫	1位 上野清吾 熊本	2位 鬼柳一字 岩手	3位 福盛田立明 神奈川	3位 勝呂 孝 埼玉	1位 大窪龍史郎 埼玉	2位 黒澤安博 埼玉	3位 小森勝男 東京	3位 中島 忠 埼玉	M10 73kg級	1位 内藤 純 栃木	2位 石井洋秀 神奈川	3位 清水常雄 新潟	3位 中村 古 兵庫	M10 81kg(M9)級 M10 +90kg級と統合	1位 諸山和美 愛知	2位 役田英穂 埼玉	3位 三橋英夫 神奈川	3位 荒木関昌明 神奈川	M11 60kg級	1位 山本健夫 東京	2位 杉原 尚 茨城	3位 岡田庫二郎 兵庫	M11 66kg級 M12 60kg級との統合			
1位 若月良夫 新潟	2位 高橋勲十 岩手	1位 中井司朗 奈良	2位 柘植健司 神奈川	3位 佐藤勝志 東京	3位 竹安晃照 東京	1位 中井司朗 奈良	2位 柘植健司 神奈川	3位 佐藤勝志 東京	3位 竹安晃照 東京	M11 73kg級 M11 81kg級と統合	1位 若月良夫 新潟	2位 高橋勲十 岩手	1位 曾根美奈子 新潟	2位 井上奈美 京都	F1 63kg級 F2 63kg級と統合	1位 SYLVIE BACH 東京	2位 稲田 環 山口	3位 諫山千絵 愛知	1位 北田裕美子 福岡	2位 上田真央 大阪	1位 西森沙恵 兵庫	F2 48kg級 F3 52kg級と統合					
2位 林いつみ 千葉	F2 70kg級 F3 70kg級と統合	1位 SORIDOVALL MAJJA 東京	2位 村山順子 千葉	F2 +78kg級 F3 +78kg級と統合	1位 野村紗矢香 和歌山	2位 中尾小都枝 鹿児島	1位 福永美香 山口	2位 伊藤里実 和歌山	3位 榑崎喜子 東京	3位 瀬部香織 北海道	F4 78kg級 F6 70kg級と統合	1位 鹿俣由美 山形	2位 関水友基枝 神奈川	F5 57kg	1位 岩田美喜 愛知	2位 稲垣富美子 和歌山	1位 齋院志津子 神奈川	2位 山中智視 香川	3位 加古若子 愛知	F6 52kg級 F8 52kg級と統合							

2016年日本ベテランズ国際柔道大会(第13回日本マスターズ柔道大会) 団体戦

2016 Japan Veterans International Judo Championships / Teams

男子団体戦 MEN			女子団体戦 WOMEN		
柔錬会 C JUREN-KAI C	兵庫 Hyogo	1	21	AGEO	埼玉 Saitama
東京柔道BAKA TOKYO JUDO BAKA	東京 Tokyo	2	22	エネルギーチーム B ENERGY TEAM B	東京 Tokyo
同志社WRJC DOSHISHA WRJC	京都 Kyoto	3	23	誠勇館 SEIYUKAN	静岡 Shizuoka
柔心塾 JUSHINJUKU	東京 Tokyo	4	24	中央区柔道会 CHUO-KU JUDO-KAI	東京 Tokyo
元気ひむか GENKI HIMUKA	混成 Mixed	5	25	札幌柔道連盟 SAPPORO JUDO FED	北海道 Hokkaido
丸の内柔道倶楽部B MARUNOUCHI B	東京 Tokyo	6	26	紀尾井町柔道倶楽部 KIOICHO JUDO CLUB	東京 Tokyo
明道館 MEIDO KAN	福岡 Fukuoka	7	27	大阪ガス OSAKA GAS	大阪 Osaka
中野区柔道会 A NAKANO-KU JUDO-KAI A	東京 Tokyo	8	28	修心会 SYUSHIN-KAI	混成 Mixed
横浜・六浦柔道クラブ YOKOHAMA MUTSUURA JUDO CLUB	神奈川 Kanagawa	9	29	大木塾 虎隊 OKIJUKU TIGER	東京 Tokyo
昭徳館A SHOTOKU KAN A	栃木 Tochigi	10	30	ニューゼaland 2 NZ2	ニューゼaland NZL
大木塾 熊隊 OKIJUKU BEAR	東京 Tokyo	11	31	愛知県チーム AICHIKEN TEAM	愛知 Aichi
伊豆長岡柔道会 IZUNAGAOKA JUDO-KAI	静岡 Shizuoka	12	32	山嵐 YAMAARASHI	東京 Tokyo
本郷柔道倶楽部 HONGO JUDO CLUB	東京 Tokyo	13	33	東京武道館柔友会 TOKYO BUDOKAN	東京 Tokyo
エネルギーチーム A ENERGY TEAM A	大阪 Osaka	14	34	柔錬会 B JUREN-KAI B	兵庫 Hyogo
神奈川県教員クラブ KANAGAWA TEACHERS CLUB	神奈川 Kanagawa	15	35	昭徳館B SHOTOKU KAN B	栃木 Tochigi
豆蔵柔道ファミリー MAMEZOU JUDO FAMILY	東京 Tokyo	16	36	中スル B CHU-SPO B	東京 Tokyo
柔錬会 A JUREN-KAI A	混成 Mixed	17	37	石井道場 ISHII DOJO	神奈川 Kanagawa
北海道さんご柔道 da BEAR HOKKAI DOSANKO JUDO DA BEAR	北海道 Hokkaido	18	38	近紀会 KINKI-KAI	混成 Mixed
セキュリティパワーズ SECURITY POWERS	東京 Tokyo	19	39	丸の内柔道倶楽部A MARUNOUCHI A	東京 Tokyo
ニューゼaland チーム NEW ZEALAND TEAM	ニューゼaland NZL	20	40	坂出市柔道協会 SAKAIDE JUDO ASSO	香川 Kagawa
鹿兒島 KAGOSHIMA	鹿兒島 Kagoshima	1	2	チーム和歌山 TEAM WAKAYAMA	和歌山 Wakayama
			3	三国 SANGOKU	神奈川 Kanagawa

2016/6/20 18:32

第八回

ベテランズ国際大会

参戦記

第八回世界ベテランズ国際柔道大会に参戦

日本マスターズ柔道協会

副会長 内藤 純(栃木県)

第八回世界ベテランズ国際柔道大会がアメリカ・フォートローダーデール(フロリダ)で開催され、日本マスターズ協会から私他十三名の選手と応援団三名、JTBより水野さん、総勢十七名が、平成二十八年十一月十六日に成田に集合した。

十一月三十分、ダラスへ向け出発。現地時間七時五十五分頃、ダラスに到着した。その後、飛行場の混雑や色々なトラブルにより、予定の乗り継ぎ飛行機に乗れず、夕方の便にて、フォートローダーデールに到着、ホテルへ向かった。

十一月十七日(木)、受付計量のため、会場へ行くが、いつものことで、大変時間がかかり、十七日は受付計量で終わってしまった。

十八日(金)は、M6よりM

11の試合が行われた。成績は、相手に恵まれた人、また相手に恵まれなかった人と様々でした。

次の日より、第二の目的である観光を行い、マイアミ市内、キーウエスト、セブンマイルブリッジ、エバーグレース国立公園などを見学。十一月二十三日、参加者全員が成田に戻る事が出来た。楽しい八日間であった。

旅行中は色々なことがありましたが、皆さんの的確な判断とご協力により、私も無事役目を果たすことができ、大変感謝しております。来年は、イタリアでの大会です。大勢の方々と一緒に参加出来ればと願っております。

参加選手

M11・60kg	岡田庫二郎
M10・60kg	杉原 尚
M10・73kg	鬼柳 一宇
M9・60kg	中島 忠
M9・73kg	内藤 純
M9・73kg	井田 幹夫
M8・73kg	五十嵐徳英
M8・81kg	西久保博信
M8・81kg	片桐 清司
M6・81kg	久宮登三夫
M6・81kg	上木 保男
M3・66kg	佐藤 英則
	中山 幸久

応援団 鬼柳繁子 内藤和子
中谷早織
個人参加 大塚夫妻 加藤夫妻



世界ベテランズ柔道大会に参加して

千葉県 五十嵐徳英

昨年(二〇一六年)は、日本マスターズ柔道協会の「世界ベテランズ柔道大会参加ツアー」に加えて頂き、初めてIJFの世界ベテランズ柔道大会に出場しました。世界大会にはIJF柔道大会の日本開催(二〇〇三

年/講道館)の際に参加しましたので、世界大会としては二回目になります。昨年の日本マスターズ柔道大会では、M9・73kg以下級で優勝しましたので、世界大会でも是非とも優勝したいとの気持ちで参加しました。ところが、緒戦で試合に敗れ(優勢負け/相手が有効1、指導2に對しこちらは指導2)、このままでは日本に帰れないと青くなりしましたが、自分に勝った相手が決勝まで上がった(最終的に優勝)ため、敗者復活の権利を得て、その後の二戦に勝つことが出来、まさに薄氷を踏む状況での銅メダル獲得でした。

今回参加して、日本での大会の運営等の素晴らしさを改めて実感しました。と云うのは、大会参加に際し、大会運営当局から、選手にプログラムやパンフレットなどの資料は一切配布されず、試合の直前になって(時には試合中に)、自分がどの国の誰と対戦するのかを、壁に貼られたA4サイズの組合せ表や試合場に掲げられた電光掲示板に表示されるといった有様でした。他には一切の情報が無く、インターネットのホームページから情報を覗くしかない状態でした。従って、帰国後、家族含めた知人に、試合の関係資料を

見せ説明しようにも何も無く、メダルのみが参加した唯一のエビデンスと云う状態でした。

思い返してみると、日本で世界大会が開催された時には、立派なパンフレット(単に柔道関係者のみでなく、政府関係者のコメントまで載っていた)が配布され、今もその試合のことを振り返ることが出来ることを考えると格段の違いを感じました。

また、前日の計量、登録の際にも、三時間並んで待たされる状態でも、世界の先端を走るアメリカでこの手際はなにごとかと憤りを覚えるほどでした。聞けば、他の国では更に酷い例があり、今回の三時間待ちが良い方と伺い、つくづく日本の素晴らしさを思い知らされました。

このツアーで、試合の後にマイアミ、キーウエスト、エバーグレイスの観光をしましたが、現地に行き現物を目にすることが、必要であることを改めて感じました。アメリカのフロリダと云えば、フロリダ半島の全体が人の多くいる市街地的なところかと思いましたが、人がいるところは東海岸のみで、他は大自然がそのまま残っており、エバーグレイスでは、ツアーで見学している間に、ワニ(アリゲーター)を十頭以上目撃し



エバーグレイスでの記念写真です。

ましたし、キールウエストへ向かう途中のセブンマイルブリッジでは、1mを超える魚が目の前を泳いでいるのを見ることが出来、アメリカの規模の大きさを実感しました。試合会場のあるフォートローダーデールのホテルの周りは、所謂マリナーで、クルーザーが係留してあり、それらがみな素晴らしいものばかり（五人、十人乗りと云うような規模ではなく何十人も乗れるようなりっぱな船）で、それが地域全体では数十隻ではきかない、数百隻はあるかと思われ、アメリカの金持ちはどれほど居るのかと経済の規模の違いに驚きました。

次の世界大会はイタリア開催と聞きましたが、経済が許せば（家内のご機嫌を伺いながら）見分を広げるためにも参加したいと思うところです。

一、果たせたか国際親善
表彰式に流れる国歌君が代は誰もが感動するもの。
今回の米国大会で私はM8・81キロ級で戦い、幸いにも銅メダルを獲得できたことは、日本選手団内藤団長以下のご指導と、応援団も含めた融和団結の賜物とまづもって感謝しております。ところがその表彰式において、被表彰者席でカメラを弄っていた私は、勝者に対する国旗掲揚が始まったのに気づかず、右隣の優勝者ウズベキスタン選手に膝を叩かれてハット驚き起立、他の被表彰者も全員が起立し敬意を表している中で後れを取り、本場に恥ずかしい思いでした。



滋賀県 片桐 清司

二 米国人柔道家との交流
試合が終り、日本選手団応援席で五十代の試合を観戦していると、以前の大会で私の審判をしてくれた米国人、ポール・タラント氏が三回戦を試合中で思わず駆け寄り応援。試合後、流ちょうな日本語で話す彼が私たちの日本選手団の席に来たので、異国文化交流の好機と捉え、彼にいくつか質問した。
先ず、前日の計量と受付は、もつと段取り良く手身近にやれないものか。
次に、オリンピック等でも見られるが、礼法が今一。両足を開いたままで礼をしている選手

が多いのに審判は誰も注意していないなどの質問に、素直に答えてくれ、他の日本選手も何人か質問。そこで団長の許可を得、親しくなった彼を当日の邦人夕食会に誘ったのです。ポール氏と来日十一年間の講道館や警視庁での修行体験談とともに、米大統領選挙結果と次期トランプ大統領に期待することを質問したりの歓談。食事会の最後には全員に「日本柔道に期待する」旨のスピーチをしてくれて拍手喝さい。私は非常にうれしくて、二〇一一年ニューヨークでの世界警察消防オリンピック優勝記念のシャツを彼のTシャツと交換しました。
そのポール氏の言動で気がかったのが、トランプ候補の対日政策。日本に対し駐留米軍経費の負担増額、強いては米軍の撤退と日本の核武装容認発言はまさにその通りが普通の米国人の考えということでした。日本は、敗戦下で占領国の作った日本精神骨抜き憲法のまま七十一年も経過しており、自国に対する誇りや国家意識も薄く、自国の安全は自らが命がけで守るといふ鉄則さえ忘れていたのではないかと危惧を吐露され、私も全く同感と応えた次第。

三 日本への危機到来
今回の日本選手十七名の内、金メダルは七〇歳代のお二人と三〇代の一名だけ。前回リオ五輪ではかなり好成績を得られたものの、世界の柔道は年々盛況で、サッカーに次ぐ競技人口とその実力は、本家日本を凌ぐ勢いであることはベテランズにおいても現実。また、私のクラスで優勝したウズベキスタン選手六十五歳は、一介の工場労働者との話。一方の私は、柔道を生業としてきた元警察官であり、試合に負けるといふことは犯人を制圧できず市民を守れなかったということになり、また柔道の本家としても情けない思い。
今後の日本柔道においては、競技人口の減少に歯止めをかけるとともに、マインドや技術面において一層の精進努力が求められるとともに、昨今の平和ボケ日本から脱皮し、米国トランプ大統領誕生による早期の国家意識醸成は、喫緊の課題であると痛感。
今や、かつての先人が築いた世界に冠たる日本の武士道精神と大和魂を取り戻さなければならぬ時期にあると思えました。
四 出場支援者への感謝
海外遠征するたびに問われる



のが、「その費用はどこから出るの?」という世間からの質問。今回は、四年前まで顧問として勤めていた会社の会長が、最近海外試合から遠ざかっていた私に対し、「経費は援助するから出場を!」との一声で実現。また、同様に、指導する柔道教室の社長から支援を受け出場された東京都の佐藤五段もいたが、残念ながら一回戦敗退。メダルは逸したものの平素の貢献度からの援助であり、胸を張って帰国の途にと皆んなで激励。

お互い、今後も「がんばれ日本柔道」の支援者を一人でも増やす努力を続けてまいりたいものです。

なお、もう一人、わがままを認めて支援してくれた妻にも感謝。

(滋賀県柔道連盟顧問・北桐館 びわ道場塾長)

「国際ベテランズ柔道大会参戦記」

岩手県 鬼柳 一字



米国(フロリダ)で開催された国際ベテランズ柔道大会を終え、今年目標としていた高段者大会(県・東北・全国)、マスターズ大会(国内・国際)の五大会全ての試合を戦い切る事が出来ました。

フロリダでは幸運にも優勝することが出来、世界大会では七個目の金メダルとなりました。

今回の大会では私の階級(M10)が実際に試合をした最高年齢階級で、M11は戦う事なく榮譽表彰で済まされています。然しこの判断は、私に言わせれば明らかに誤りであると考えます。

出場選手は生涯柔道を目指し、日常生活での節制、修練を積み重ね自己責任の覚悟で出場したのです。

このような生涯柔道の意義を理解せず、欧米の合理主義で勝手に処理してしまう事は、多く

の高齢柔道家の日常修練に対する意欲を奪う事になると考えます。

柔道発祥国の日本として、嘉納師範が残した「精力善用、自他共栄を具現する生涯柔道こそが柔道修行の究極の目的である」ことを世界に向かって訴えて行くべきと思います。

帰国したところ「第50回グッドカンパニー大賞・グランプリ」受賞決定の連絡が入りました。

サラリーマンの枠からはみ出し、三十歳の時に岩手に流れ着いて独立創業し経営者と柔道家の二足の草鞋で過ごして来ました。日本人男子の平均寿命から逆算すれば残命はあと数年、会社については創業社長ながら持株ゼロ、次世代にも代表権を持たせ身軽になっています。

但し柔道家としては、生涯柔道を目指し更なる修練を続ける覚悟です。今後とも宜しくお願ひ致します。

第八回ベテランズ国際柔道大会に参加して

茨城県 杉原 尚



私達大会参加者一行(十六名)は、平成二十八年十一月十六日に成田空港をたつて、一路アメリカはフロリダ州第二の都市フォートローダーデールに飛び立った。

途中乗り継ぎのダラス空港で、アクシデントがあったものの、約十二時間遅れで、現地時間午後十一時に到着した。チェックインして即入床した。

翌十七日は選手登録、会場は長蛇の列、三時間待ちで何とか登録した。

十八日はM6、M11の試合日、朝食をすませ、午前八時四十分ホテルを出て会場に向かった。着後すぐに着替え、ウォーミングアップをすませた。

試合場は、五試合場が奇麗に整備されていた。試合場をバックに記念写真を一枚、あとは開会を待つのみであった。開会直前にM11の出場者は四名であることが分かった。四名全員に特別賞が用意されているのと、ケース入りメダルを見せられ、四名全員にこのメダルが授

与されるので、試合はケガをすると大変、アメリカは医療費が高い、あんに辞退しよう説明があった模様。

私は辞退しない旨話したが、すでに三名は辞退している。非常にも不満であったが諦めざるを得ない状況にあった。

考えるに、今日の試合を目ざして毎日の健康と体重管理をいたし、試合日には体調をベストで臨んでいるのに、辞退の話は残念至極であった。

私は試合のために、わざわざ日本からアメリカへ時間とお金をかけてやって来た。勝負やメダルは別にして、試合だけはやって帰りたい。

人間は毅然と生きる為には、年に何回かは一心に戦う時が必要だと思っている。

特別賞は開催都市の特別の何からいで有難いことではあるが、辞退への誘導だけは頂けなかった。

翌十九日は、マイアミへ飛んで市内観光、二十日はキーウエストとセブンマイルブリッジ観光である。これは又何年か前に観光した場所やむを得ず皆と共に行動した。

二十一日の観光は、はじめての観光地、エバーグレイズ国立

公園の見学である。人間の手が加えられていない際限なく広く平坦な湿地である。ワニが所どころで日向ぼっこをしていた。

水草の上をすべるように飛ぶエアポートにも乗った。記念に国立公園のバッチを買った。

二十日観光のキウウエスト、セブンマイルブリッジといえ、二十一日のエバーグレイズ観光といえ、無辺にして広大な土地、スケールの大きな強いアメリカを痛感した。

広大にしてスケール大のアメリカは、国籍の違う人々、色々な人種の人達が融合して共に生活をしている。

アメリカは自由の国、民主主義の国、大胆にして偉大な国、アメリカ・フロリダ州マイアミをあとに二十二日に帰国の途についた。

十一月二十三日十五時半に、成田空港で内藤純団長の挨拶をいただき、各自解散した。

帰国後エバーグレイズ国立公園のバッジが今日も私の胸に輝いている。

第八回 世界ベテランズ国際

柔道大会参戦記

神奈川県 西久保博信



ブリュッセル、アトランタ、ブタペスト、モントリオール、フランクフルト、アブダビ、マラガ、今回のフォートローダー

デル（フロリダ）が8回目の国際大会参戦である。日本マスターズ柔道協会の選手十三名、

応援団三名、添乗員一名計十七名のツアーは十一月十六日十一時三十分勇躍成田を出発一路ダラスへ、日付変更線を越えて同日七時五十分頃ダラス着、乗り継ぎ手続きの遅れと、ハプニングで予定の十時二十五分発の便には乗れず、七時間近く待機、夕方方の便で漸くフォートロー

ダーデルのホテルに辿り着いたのは深夜だった。十一月十七日計量日、朝食前にホテルの備

え付け秤に乗ったところ、71.5kg。

M・9 73kg以下のエントリーなので、15kgの余裕！十分な朝食を摂って登録会場へ、いつもながら遅々として進まぬ行列に

イライラを募らせながら計量会場へ。十一時三十分予備計量の秤に乗たらなんと73.75kg、計量

オーバー三人組の一人として、会場まん前の美しいビーチを三十五分間走って、二回目の予

備計量73.15kg。たった0.15kgを落とすために、痛めている両膝の負担を考えて、六、七段の階段五

か所を組み込んだホテルの遊歩道を、速足で十二周（三十分）、三回目の予備計量72.55kgやっと合格。

計量合格証を持って再び行列の最後尾へ、昼食を飛ばした兼夕食のメンバーに合流したのは

十五時三十分頃だった。考えてみれば、ホテルの秤は人間が乗るのではなく航空機に乗るとき

預けるトランク類が20kgを超えていないかのチェックに使う秤で70kg以上の人間が乗った場合

どうなのか？余りに軽率だった。十一月十八日M6、M11大会

当日、アブダビ大会2位、マラガ大会3位の実績からか一回戦

はシード、二回戦マラガ大会優勝のラトビア・バレンチン選手と対戦、前日減量のため一時間

を超える走り込みをやり、一晩で回復できると過信していた

七十三歳、身体が付いてこない、全く力が入らない、それでも辛うじて優勢勝ち、準決勝戦進

出、相手はGBRの選手、引き手が取れず振り回されてアッパーアップ、それでも崩れた相手を

上手く横四方に抑えて有効、後二秒で技有りだったのに、残り二十三秒有効を取り返され、指

導一差の優勢負け、敗者復活戦を勝ち上がったきた日本の五十嵐選手との三位決定戦に敗れ

とうとうメダルなし。百パーセント自己責任の減量失敗のお粗末、身に滲みました。日本人は

ハワイ、ハワイだが、アメリカ本土の人びと憧れの地はフロリダと聞く。日本の金持ちがとて

も買えない、豪華レジヤールボートが所狭しと停泊してる、フロリダ第二の都市フォートロー

ダーデル。琵琶湖の二十三倍は有るといふ湿地帯、エバーグレイズ国立公園、英語よりスベ

イン語が幅を利かせるキウウエストの陽気なキューバ人、アメリカ人の憧れの地フロリダは実

に楽しかった。

世界ベテランズ柔道大会から

もどって

兵庫県 岡田庫二郎



前略、柔道大会中は、色々とお世話になりました。また、写真を送って頂きありがとうございました。十一月二十三日の夜

中に豊岡に帰りました。時差ボケか？その後寝てばかりいました。十二月に入り、やっと良くなったようです。

さて、日本マスターズ柔道協会ですが、私にとりましては、協会様々です。私は大阪拘置所に十年間刑務官として勤め、豊

岡拘置所に三十年、計四十年刑務官を勤めました。警備隊勤務で、毎日柔道の稽古をしていま

した。五段に昇段してからは、若い人達の指導係となり、豊岡

に転勤となり、後は市内の高校の柔道部に非常勤で週一、二回行くことになりました。退職後は、長い年月危険業務に従事し

たことで、叙勲を頂きましたが、家内を見送り、男やもめとなり、ボンヤリとした日が続いている時に、マスターズ柔道大会を知り、思っても見なかった世界大会にも出場し、その後年一回は国際大会にも出場することで、たくさんの思い出が出来ました。

私はマスターズ柔道協会の会員となり、良いことばかりです。そして孫や子供達に「お金はノコサズ、もっと大きな金・銀・銅のメダルを残すはな」と言っております。

そして私は、「継続は力なり」を身上として、毎日子供達と乱取り稽古をし、また近所の健康施設に行っては、筋肉運動などをしていきます。

頭の方は相変わらずです、で、宜しくお願い致します。

継続は力なり

兵庫県 岡田 庫二郎

トルコに行った時、じゅうたんの買って帰りましたが、トルコの娘さん達の姿を思い出して、自分の足を踏むことに気が引けて、じゅうたんは、ガラスのケースに入れて、下駄箱の上に飾っています。また、マスターズの思い出の品々はみんな飾っています。私にとっては、マスターズ柔道協会様々です。どうか今後ともよろしくご指導お願い致します。

但馬人 (たじまんちゅう)

スーパー元氣人紹介



紹介します！岡田庫二郎さんは、御年82歳になられた今現在でもウェルストークに通われ、体を鍛えている元気なおじいちゃん。7年前の75歳の時にアメリカで開かれた第11回世界マスターズ柔道大会の75～79歳の部・60kg以下級で金メダルを獲得されています。



読者様の情報を発信する「但馬人」！紹介したい方がいらっしゃればスタッフまで！

平成 29 年 1 月 13 日

第 8 回 世界ベテランズ国際柔道大会
「日本マスターズ柔道協会参加者の結果」

岡田庫二郎	M・11 - 60kg	試合なし	特別賞 受賞
杉原 尚	M・11 - 60kg	試合なし	特別賞 受賞
鬼柳一字	M・10 - 60kg	M10・60kg と統合	金メダル
内藤 純	M・10 - 73kg		金メダル
中島 忠	M・10 - 66kg	M10・60kg と統合	銀メダル
井田幹夫	M・9 - 66kg		銀メダル
五十嵐徳英	M・9 - 73kg		銅メダル
西久保博信	M・9 - 73kg	3位決定戦敗退	5位
片桐清司	M・8 - 81kg		銅メダル
久宮登三夫	M・8 - 73kg		銀メダル
上木保男	M・8 - 81kg	3位決定戦敗退	5位
佐藤英則	M・6 - 81kg		一回戦敗退
中山幸久	M・3 - 66kg	準々決勝敗退	7位
(個人参加のマスターズ会員)			
大塚俊彦	M・7 - 81kg	3位決定戦敗退	5位
加藤彰一	M・6 - 81kg	敗者復活二回戦敗退	9位

IJF 世界ベテランズ国際柔道大会開催予定
(2016年9月19日)

- 2017 OLBIA SARDINIA ITALY
- 2018 CANCUN MEXICO
- 2019 ABU DHABI UAE

情報提供 大塚俊彦 常務理事



会場風景



さっそく国際交流



ホテルへ到着後一休み



メダルを獲得



試合を待つ選手たち



試合前の打ち込み



会場には世界中の旗が！



試合風景



フロリダの海岸



海辺のレストランで



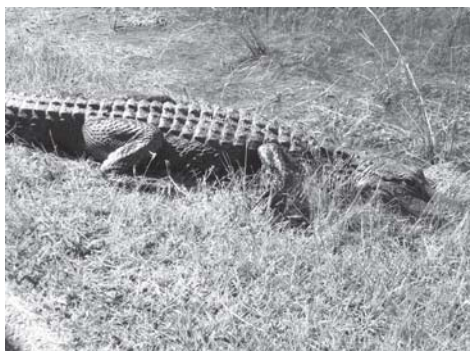
イチローグッズが並ぶ



マイアミといえばマーリンズ



海岸では美女が甲羅干し



公園にはワニが放し飼い？



お孫さんと一緒のアイスクリームはおいしい



ワニの子供です



世界ベテランズ柔道大会で優勝

内藤純さん（七十六歳）

「仏教の教えに通じる やわらの道」

常念寺保育園(内藤弘純園長)通7丁目
の理事長・内藤純さんはこのほど、米フロ
リダ州・フォートローダーデールで開催さ
れた「第8回世界ベテランズ国際柔道大会」
のM10(75〜79歳)・73kgクラスで優勝し、
金メダルを獲得した。今回で5回目の優勝。

内藤さんはこれまでに、マスターズ柔道
日本大会でも13大会中10回優勝、2回準優
勝という成績を持つ。現在76歳で、今後も
国内外の大会出場を目指していくという。

また、同保育園の園児や昭徳館道場で永
年にわたって指導しており、時には海外に
遠征し、外国人選手の指導にあたることも
ある。

「ここまで来たのは、柔道が続けてきた
ということが良い。子どもたちにもそう伝
えている。人生の中では色々なことがある
が、諦めないで続けること。やればやるほ
ど結果がでる。今はダメでもいつか花が咲
く。柔道を通じて、みんなが幸せになれば
いい。それは仏教の教えと同じであると考
えます。日本の柔道は、世界に出ると本当
にすごい。外国の人も一生懸命やっている
ので、柔道を通して、各国の柔道家と仲間
になりたい」と語っている。

今大会では、足利市(造士館)出身で、
五輪メダリストの石井千秋さん(ブラジル
在住)もM10・90kgクラスで優勝した。

(両毛新聞 二〇一六年十二月十六日)

みんなのスポーツ

大切なことは、挑戦し続けること



▲6月23日、時津町役場へ来庁

左底郷の稲田盛良さんが、6月18・19日に東京都で開催された、2016年日本ベテランズ国際柔道大会M10(75～79歳)・60kg級に今年も出場しました。

今年の結果は準優勝で「あと1歩の思い切りが足りなかった。2連覇を逃した悔しさを次に生かしたい」とのことです。

稲田さん、来年の優勝目指して頑張ってください。



【トピックス】

稲田盛良さん(長崎県)の活躍が、長崎県時津町の町誌「広報とぎつ」に掲載されました。

祝 宮崎地区柔道祭 日本マスターズ柔道協会

<http://jamja.hp.infoseek.co.jp/>

常任理事九州支部長 山田 雅弘

第53回
宮崎地区柔道祭
(第29回宮崎県武道振興演武大会)



と き 平成28年11月27日(土)午前9時開会
と ころ K1R5511MAツツワキ武道館
(旧名称 宮崎県武道館)

日本マスターズ柔道協会九州支部・山田雅弘氏(宮崎県)が、地元の柔道大会(宮崎地区柔道祭・平成二十八年十一月二十七日開催)のプログラムに、自費で協会の広告を掲載してくれました。

◆ 編集後記 ◆

★十六号から編集に加わった西谷と申します。8月の編集委員会を欠席した折、前編集長の西久保博信氏が次号から編集長を退きたいという意向を示したため、私にご使命が回ってきたのです。私は、印刷会社をやっているため、それでは印刷も私に頼んで下されば、ということでお引き受けした次第です。私としては、協会と私の双方に益があればとの思いで申し出たのですが、果たして結果は？今回は、西久保氏の助けがあつての編集でしたが、次号は一人で出来るだろうか。とにかく今回は何とか発行に漕ぎつけました。

★次次と送られてくる原稿をまづ、タテ組みに直すことから始めました。数字を漢数字に変えながら読んでいくのですが、文章が気になる、直し始めると切りがない。と思いつつも手を入れてしまう自分にこれはいいことなのか、自問しながらの船出でした。

★「てにおは」より、皆さんの柔道に対する情熱に圧倒され始めて、ようやく調子が出てきたころ、この会報の意味が少し分かってきたかもしれない。特に七十代、八十台で柔道が続けられる意味が。私も今年六十六歳になります。自分がいつまで柔道をやれるのかも自問しているところです。

西谷 博一

プに貼り付けておきながらそのまま忘れて掲載漏れを犯してしまったり、校正の見落としで「自己啓発」を「事故啓発」とやったり、原稿を送って貰いながら受付ミスで掲載漏れがあつたら許されないことなので、原稿送信連絡を頼みながら電話に出られなかったこと等不手際の数々お許し下さい。十六号から担当される西谷博一氏は「丸の内柔道倶楽部六十五年のあゆみ」や日本マスターズ柔道協会の初めての記念誌「十二年の歩み」等を手掛けたプロですが、最初の編集で日本マスターズ柔道会員の「柔道に対する情熱に圧倒され、七十代、八十代で尚柔道続ける姿勢とその努力に強い刺激を受けたとのことです」高齢少子化がますます進む日本にあって高齢者の姿勢、情熱、頑張り、張り、張りが、日本柔道人口の増加に結び付くよう、使命感をもって頑張らばいい。

西久保博信

追 録

米国にて、かく戦えり

神奈川県 井田 幹夫



一昨年のスペイン大会の惨敗を踏まえ、今回一階級下のM9・60kgでの参加を決め、一月ごろから減量を始めた。十一月の世界大会までに約6kg減量できれば、と思っていたが、六月の日本でのベテランズ大会には66kgでの参加、また団体戦に出場するので、いつきに減量というわけにはいかない。そのところを考えると、64kgを理想的な

体重とした。世界大会までには五ヶ月間の余裕があるので、4kgの減量はなんとか可能であろうと思ったからである。幸運にも日本の大会では、実に個人戦出場から九年目にして、金メダルを得ることができた。この勢いを持って米国にいざゆかん！の心意気で世界大会にチャレンジすることになった。減量も順調にいき、60kgに押さえることができた。大会当日の事前の計量では、0.25kgオーバー、ホテル前の海岸でランニング等を行って、公式の計量で59.85kgで無事にクリアとなった。計量後仲間との昼食には分厚いステーキをほっとしつつ、たらふく食べた。ところが翌日の試合会場にはM60kgの対戦表が、どこにも見あたらない。あれっと思つてよく

捜すと、66kgに自分の名がエントリーされていた。事前の参加者名簿で60kgは私だけらしいとの情報があったので、どこかに統合されるであろうと覚悟していたが、まさかせっかく、減量したのに、以前の66kgに統合され、五名総当たり戦ということになって、落胆するばかり。この一年間の減量はいったい何だったんだらうか、憤懣やるかたない気持ちでいっぱいになった。だが賽は投げられたのだ。

あとは自分の技量と憤懣の気持ちをぶつけるだけだ。そのおかげだらうか、なんとか銀メダルを獲得できた。試合後には「終わり良ければ、総て良し」の気持ちに切り替えようと、次第に心の余裕が湧いてきた。とは言え次回のイタリア大会を前にして、もう減量をやめようという気持ちはまだない。また懲りずにやるだろうとする自分に啞然とする今日である。

榎豆蔵・豆蔵柔道に感謝

第八回世界ベテランズ柔道大会

東京都 佐藤 英則



幼少期、畑の中の六畳一間の小屋で生まれ育った私が、柔道と出会い、世界の大舞台でANDREYAN ZYLと会った柔道に感謝。

多くの人達から支援を頂き高校までを卒業。大学入学前の春は新横浜へ2ヶ月出稼ぎ経験。そんな私の人生の節目節目に、何時も「柔道」があり、柔道を通じて「人」との出会いに感謝。人生観を豊かにライフスタイルを満喫。

感謝①健康な体に・両親に感謝。

感謝②高校時代の恩師、外部指導の故阿部久嘉先生(天理OB)に感謝、白帯から育てて頂き、天理大学から柔道推薦入学の承諾。承諾を頂きながら家庭の事情で断念。大舞台への導きに感謝。十数年前、癌で他界する直前には、私の住む仙台の病院で終えたいと転院。※奥様から聞き、感無量。また、「肩車の神田」と言われた故神田久太郎先生(九段)から三道会館で指導を受け、もっと真面目に稽古すればと、反省と指導に感謝。

感謝③学生生活後半、授業料延滞・返済で昼夜働き、同級生に迷惑かけお詫びと感謝、温かく見守って頂いた宮本理吉師範

に感謝。学生時代から現在も親交続く、先輩方々のご指導に感謝。

感謝④就職勤務地の仙台・郡山市の柔道会、現在住の練馬区柔道会と講道館稽古の先生方との出会いによる柔道継続の導き。転勤先である東京、練馬区の総合体育館柔道場の「サンデー柔道」と出会わなければ、三十年ぶりの柔道再開も、マスターズ柔道出場・世界大会出場もありません。

感謝⑤そして「柔道の対戦」で出会った、(株)豆蔵HD荻原社長、荻原社長の勧めで豆蔵柔道クラブへ師範として招かれ、少年育成。私だけではありませんが、多くの柔道家は柔道を通し、人と出会い・交流の中から人間形成が生まれ、一社会人としても成長。仕事の成果にも繋がるものと思います。荻原社長から日本マスターズ柔道東京大会連覇のお祝いとして、米国フロリダ州での世界ベテランズ柔道大会への出場。(渡米費用・柔道着提供等を頂きました。)

大会結果は、一回戦(フランス)の試合開始早々に相手のズボンをつ掴んでしまい反則負け。今年のマスターズ東京大会を優勝・連覇、そして全国高段者・都高段者大会もすべて一本勝ち

し、勢いの流れはあったものの、世界大会に向けたトレーニング強化中、大会一か月半前に、膝と股関節を痛め、稽古が出来ていないとは言え、大切な試合で結果を残せませんでした。

しかしながら、世界大会の感動は、今後の、イタリア大会・オランダ大会・サウジアラビア大会に向け優勝を志す機会を得ました。フランス・オランダ・アメリカの選手達と大会前日練習や当日交流・懇親会等で友情が育まれ、再会を願う様になりました。また、大会会場は、オリンピック・世界大会の様な大会場と表彰演出、参加者も一五〇〇人程。(私のM6・81kg級で三十名程)その上、選手が多くが「柔道」「技名称」の入れ墨を入れている人も多く、柔道に青春・人生を掛けた、へビーな柔道魂を感じました。(日本以上に柔道が愛され、生活に浸透を感じた)フロリダ大会、最高の思い出として、滋賀県の片桐先生(七段)と減量を目的に、マリOTTハーバービーチの海を目前にして、芝生での打込みは、長年育てて頂いた「師匠と弟子」を感じさせる稽古でした。有難う御座いました。

最後に、栃木の内藤団長(八段)・千葉の上木総監督(八段)

をはじめ、同行の先生方・応援奥様方のご指導により事故怪我無く、世界大会を楽しむ事が出来、有難うございました。



練馬区「サンデー柔道」の仲間と2014年日本マスターズ優勝時の稽古後の記念写真

弔 辞

日本マスターズ柔道協会顧問高柳喜一先生の訃報に接し悲しみに耐えません。

思い辿りますと、発足当時の当協会最初の事業として、前年国体開催の各県柔道協会に、日本マスターズ柔道大会を主管開催して戴くことを、当時副会長の慶應柔道部監督 清水正敬君と共にお願いして、ご快諾を戴き、第一回日本マスターズ柔道浜北大大会が華々しく盛大に開催するに至りました。その折、ご令息の依正君の早慶柔道戦での華々しいご活躍をご報告したことも鮮明に覚えております。

その浜北大大会を第一回として年々隆盛し、昨年は第十三回を数え、加えて依正君も三十歳以上の有資格者になり、個人戦に団体戦にご活躍のことを併せてご報告申し上げます。

七十九歳は早すぎます。これからは高柳先生には、先鞭をつけて戴いたマスターズ大会を、天国よりゆつくりとご覧戴きますよう、併せて安らかにご冥福されんことを切にお祈り申し上げます。

平成二十九年一月八日

日本マスターズ柔道協会
初代・名誉会長 野口 宏水

お詫び

この追録は、編集部の不注意により、日本マスターズ柔道協会第十六号会報から掲載がもれてしまった記事を中心に作られております。編集部としましては、今後このような事が起こらないよう充分な対策を講じる積もりでおります。伏してお詫び申し上げます。